



空間に浮かび上がる
新緑の世界は
休みもなく降り注ぐ
初夏の陽光に
森林のにぎやかな
ハーモニーをつくりあげる
日々、深くなる緑葉は
いつしか梅雨を迎える
しょうしょうと降る銀の針は
山肌を吸い込まれ
霧となり霧となって
幻想的な世界をつくりあげる
この世界が解かれる時
北山は本格的な夏を迎える

新緑のトチ (由良川源流)



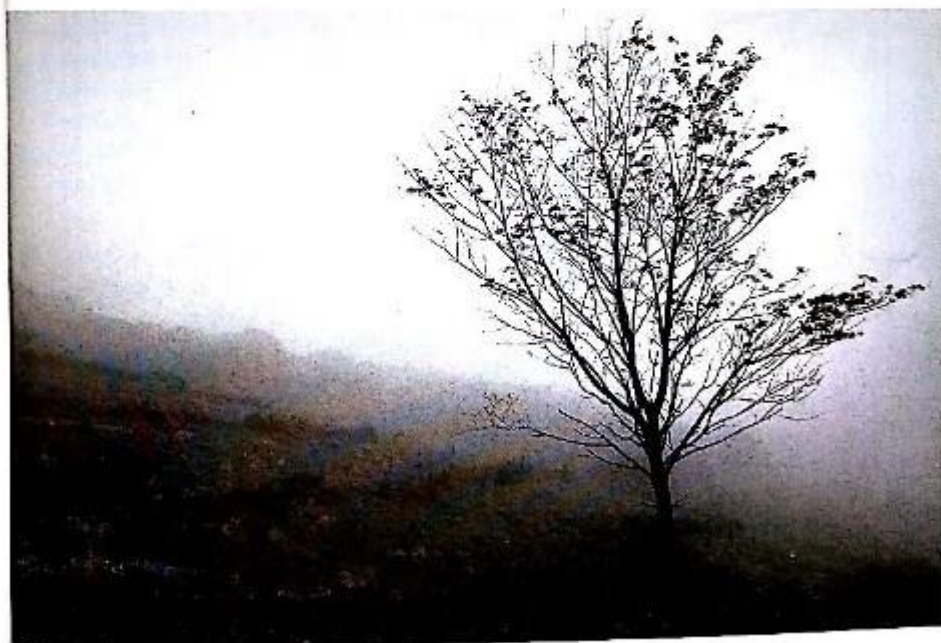
京都北山撮影紀行 ④

さん や しょう よう 山 野 逍 遙

新緑から梅雨入りへ

—— 幻想の世界 ——

撮影 北川 裕久



梅雨の幻想 (苔子山)

●目次

表紙：松田敏男「ランドレルよりアンナブレナサウスを望む」(ネパール・ヒマラヤ)

●作者プロフィール●1948年、京都府生まれ、京都府立芸術大学卒。
1987年より山岳記者、山岳部の編集多岐にわたる。京都府立芸術大学、南アルプス(日本小屋、他) 京経山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等山岳研究委員

●グラビア	京都北山撮影紀行④ 山野遊遊	北川 裕久	2
●感想	「山のエッセイ」		
●オニヤブンテツ	自然破壊と山の回復	内田 嘉弘	6
●ハイキングのきっかけ		三男 三男	7
●雨ヶ岳		内田 嘉弘	9
●大目山	(連載)日本登山紀行2 御嶽山	浅野 孝一	12
●磯砂山		松田 敏男	17
●エリア	京都北山西 花野止河原・京北町周辺の山	多摩 雪雄	22
●別研究	新編から初夏へ、さわやかコース(感想)	北川 裕久	24
●片波山	①片波山	30	
●森谷山	②森谷山	31	
●尾村八丁と衣懸坂	③尾村八丁と衣懸坂	32	
●文学歴史探訪ハイイク	④天の香具山に夏来るらし	33	
●文学歴史探訪ハイイク	⑤天の香具山に夏来るらし	34	
●宮指踏踏	⑥宮指踏踏	36	
●神野山と鶴倉屋	⑦神野山と鶴倉屋	38	
●アウトドア・ライブ入門④			
●草花遊び		二名 良日	20
●たのしい山歩き			
●尾瀬雑考④	「初夏を彩る、尾瀬の花々」	松下 渡	46
●沿線ハイキングガイド	S.H.C 関西山行計画	56	
●サードビズネーション	バス時刻(大峰)	60	
	原稿募集・広告案内	65	
		68	



大台ヶ原 (牛ヶ岳) 編集室



大台ヶ原 (日出ヶ岳付近より熊野遊を望む) 編集室

●巻頭●
この地誌の発行を始めてから、月日がとて
も早く過ぎる。それは毎日が多忙をこなし、
まだ3月なのに初夏の編集をしているから
だろう。閑散した暇に目を通しているだけ
でもう暑が過ぎ、夏になった気分になさ。
一人前の仕事を終えた後、夜の編集作業に
なる。机に向かってしばらくすると、もう0
時を回ってしまう。山歩きで疲れた身体でが
んばっている。人間、ひと冬に一度は風邪を
ひくものだが、私はひかないでいる。若い時
は腰痛や肩こりに悩まされたが、山歩きを始
めてからそれもピタリと止んだ。
歩くことが健康によいことは誰もが知って
いる。しかしなかなか実行できない。文芸社
会では人間の歩くという本能的行為をとおっく
うにしてしまった。本社会をまきまきと私達
の世代が高齢化した時、今のおお寄りのよう
に元気でいられるだろうか。
ハイキングは身体も丈夫にするが、同時に
心も成長させてくれるように思う。それは自
然と接することで、人にやさしさや人間の弱
さを教えてくれるからだろう。尾瀬のよい山
原で遠方に眺める山々をながめ、そしてそ
の上を歩いたり流れる水を見ていては、さ
くづくとその思ふ。
新ハイキング関西(代表) 村田智波



オニヤブソテツ

種垣 いづを

羊歯植物の草花といわれる花柄で生まれ育ったせいかな、今でもこれにまさる観葉植物はないと思っ
ている。山が好きで月、1、2回
の山歩きを楽しんでいるが、初め
ての山の場合ほど驚きも、アブ
ソテツを採ることにはしてい
る。それは、シダを楽しむとい
うもう一つの目的があるからであ
る。

民家の裏につづく登山口を入
るとタマシダの群生帯であったと
か、簡易水場タンクの横の丸木橋
からふもとをみると、イワヒトデ
の宝庫だったとか、そんな感慨は、
行ける所まで車でというように
楽々登山では決して得られないも
のだ。
小学時代の夏休み。植物採集つ

くりの習性は、私にとっては幸し
みでさえあった。夏休みの友とい
う、子供にとっては何のこころ
かという名の植物採集は、8月末に
なつても空白だらけだったとい
う。

中学時代は、近所の大工さんに
作ってもらった杉板の野冊を抱え
て、近くの山野を歩きまわった。
腰木づくりの車しに薪柴を使って
よく父親に叱られたりもした。ア
ソイク、フミシダ、リョウソウ
イを初めてみつけた時のことは今
でも覚えている。

オニヤブソテツという、うらほ
し科のシダがある。海岸近くにも
く、遊子を当てれば鬼鹿草「ヤ
ブソテツ」よりも強健であるため
ある」と「牧野新日本植物図鑑」
（北隆堂刊）にある。小学時代の
採集第1号がこれであった。家の
石垣のすき間から雑草で埋ま
りながら、ミカン箱でつくつ
たからである。ミカン箱でつくつ
た兄の本箱から植物図鑑を抜き出
して調べてみると、「オニヤブソテ
ツ」とあった。あつたというより

も、そう思われてあつたはずであ
る。ところがそれを私は「おにや
ぶてつ」と読んで、今、「二三
の植物図鑑を調べてみると、いず
れもひらがな表記である。多分そ
の時の図鑑は、カタカナ表記だっ
たのだろう。おつちよこちゃん
の私に、「ソ」と「ン」をまちがえて
しまったのである。「うさぎを
い」を「うさぎがおいしい」と思
い込んでいた頃だから、「鬼鹿草
族」とあつたとしても、その意味
までわかるはずがない。

とにかく私は、覚えた名前を忘
れないよう何度も何度もくり返
し、「学びて時に之を遺ふ、また絶
ばしからずや」の孔子の教えのと
おり、この「オニヤブソテツ」を
すっかり自分のものにしてしまっ
たのである。標本のラベルにも言
たのである。標本のように記したはずだが、カ
タカナ書きだったから、当時の先
生は気づかれないかつとも知れな
い。ところがその後私は、魚釣り
の磯や、ちゃんばら「この磯
など」で、このシダと出会うたびに、



随想 (山のエッセイ)

得意な顔をして、このシダのなま
え知つとるが、オニヤブソテツ
ていうんやぞ」と知つたかぶり
していたのである。

中学生になって、再度、標本つ
くりの宿願に臨んだ時、初めてそ
のとんでもない誤りに気づいたの
である。昔中から冷や水を浴びせ
られるということがあるが、ま
さにそれであった。多分あの時
ほつたが買つた赤に染まってい
たにちがいない。

あれから数十年、幾多の恥を積
み重ねてきたが、それらの恥とん
どは深い記憶の底に沈んでいっ
て、めったに浮かび上がってくる
ことはない。しかし、このオニヤ
ブソテツの記憶だけは、いつも水
面直下でうろろろしていて消える
ことはなかった。人に明かすのは、
これがはじめてである。



自然破壊と 山の回復

内田 嘉弘



ここに並べました写真は、上は1
958年、下は1991年の湖南
アルプスの天狗岩の天狗岩の写
です。割割になればお分かりのよ
うに1958年の写真には、天狗
岩の周りは水がほとんどありませ
ん。それに比べ33年後の1991
年の天狗岩の周りは水が放つてい
ます。1958年は湖南アルプス
へ入り始めた頃でしたから、この
天狗岩の形が強く印象に残りまし
た。今回、もう一度この地域を登
り直し出してから、この天狗岩に

なかなか通り会えませんでした。
33年前の記憶を辿り起こしても、
ザレた標線上にあつたということ
だけしか浮かんできませんでした。
つまり、どこにあつたか思い
出せなかつたのです。湖南アル
プスへ再登山の最初の山は矢筈ヶ岳
でした。矢筈ヶ岳へ久しぶりに入
つて気が付いたことは、33年前と
比べて陣分線が多くなったこと
でした。植林、植樹の努力の結果だ
と思えます。以前の矢筈ヶ岳への
登道はサレていました。

湖南アルプスの登り直しも最終
段階に入り天狗山の新免からのコ
ースを1991年の7月に歩きま
した。33年振りというのは初めて
歩くのと全く同じです。尾根を歩
き通し、ピーク5577の東の東海
自然歩道へ下るところでこの写真
の天狗岩に再会したのでした。蓋源
とした中に鼻をツンとした怖い天
狗岩は、緑の茂みの中に優しい顔
付きで、鼻も丸みを帯びた天狗岩
になっていました。矢筈ヶ岳で緑
が多くなつたと感じたのは間違



随想 (山のエッセイ)

なかつたのです。平城京の建設寺院の建立のために太神山一帯の原木が切り出され荒れたこの山域の回復には年数が掛かります。一度破壊された自然を元に戻すのは大変なことで人間の助けが必要なのです。

大昔は狩猟生活の移住から川の周辺の農耕の定住生活になったのが、文化が発達して、現在では山を削って山手へと延びています。六甲山全山摩訶に参加したとき、街の中を3回通過しました。恐らく以前は山の中だったと悪いと思います。人間が自然を切り取っているのです。湖阿ルプスでも33年前に比べると住宅地が山に迫っています。地球環境保護から考えるともういい加減に自然を壊すのは止めなければ、人類(動物)の将来に不安を感じているのは私だけではありません。

また、この地域を歩いていて、きれいな水が流れ落ちている所があったので、テルモスに入れて持ち帰り、家で飲んだところ腹が痛

くなりました。後できれいな水が流れ落ちていた地点を地形図で確かめてみると上部にゴルフ場がありました。農薬が入っていたとしか考えられません。地形図でよく上部の様子を確かめなければ山の隅から流れ出ていても安心出来なくなっています。

自然破壊は短期に出来ても、それを回復するには何十倍、何百倍の期間がかかるようです。もう、このあたりで自然破壊は止めて、破壊された自然回復に集中しなければいけない時期に来ていると思います。

山が荒れて地肌がむき出しになって、アルプスに似ているからと名付けられた湖南アルプス。アルプスという名前が付いていることを悲しんで、緑が多くなることを喜び湖南の飯山と言われるようになってほしいものです。

ハイキングのきっかけ

上田 三男

ただ仕事ばかりに追われる毎日が続き、気分転換でもしなければと考えていたところ、近所の先輩に誘われるまま比良山へ行った。あの時はわずかな坂道もしんどくて息が切れた。山頂で休んでいると、70歳ぐらいのおじいさんがカッコいい山姿で到着し、うまさうに水を一杯のんで、「いい気持や」とひと言、「どこから」と尋ねると「栗原村からや、山歩きはいいよ」あの時のつやのよい元氣いっぱいの笑顔が忘れられない。地図をみると、ずいぶん遠くから来られたことが分かり、びっくりした。山から帰って、なんとなくこれから山歩きでもしてみようかと思

憧れの山

おいする 笈ヶ岳 だけ

昨年(平成2年)の4月末に京都市交通局山形部の大槻雅弘氏、三橋勉氏、それに家内と私の4人で笈ヶ岳を目指した。山毛榎原山の頂上でテントを張ったが、翌朝は生憎の雨。アタックをかけたものの山毛榎原山の下りから雪不足で地肌が表れ、取っつき。その上12?13?の登りで雨が激しくなり、霜も降り出したから引き返した。停滞してもう一度アタックをしようと考えたが、この雪不足では無理と判断してその日の内に下山し、縦でテントを張り、次の日は笈ヶ岳と一乗山を登って帰った。

そして、今年の1月末に再び笈ヶ岳の計画を立てた。メンバーは前回のから三橋氏が抜

内田嘉弘

白峰

出かけることになった。昨年よりも残雪は多いとのニュースが入っており、また、天気予報は「27日は午後から好くなり28日は晴れるでしょう」と報じている。28日が笈ヶ岳を狙う日だから今回は大抵については安心してお

れた。当日朝6時に家を出て、北陸自動車道の神田サービスエリアで昼と落ち合い、10時に登り口の中宮発着所に着いた。この登りは昨年使ったから、よく分かっていたが、いきなりの雪水管理の2000坪のコンクリート階段の登りはきつい。ぐいぐい登って調整池。ここからは地道になりカタクリの花の群生を足元に見ながら高度を上げる。残雪は昨年より

山頂手前稜線からの笈ヶ岳



とはなさま。その雪解けの跡から淡黄色の丸いフキノトウの顔。杉林を過ぎて右の尾根に乗った所で中年の男の人が下ってこられ、「山毛榎原山を記憶した方がいいです……」と言った。その人は急ぎ足で行かれた。山毛榎原山が近くに近づくと、雪が雪が多くなり、大笠山が正面に見えて来た。その山毛榎原山の最後の登りになった時、両足に履物が走り、足が吊って歩けなくなりました。

出発前に体調を崩し風邪を引いていたのが原因なのか……それとも体力が落ちたためにそうなったのだろうか、こんな経験は初めてであった。休みながら徐々に進んで山毛榎尾山に着いた。筋肉痛の痛みを食いだらけに作り、暫く休憩して痛みの引くのを待った。私の足は、ここでテントを張れと言っているが、明日のアクタックを考えるとテント場はもう少し先に風をさなければならぬ。山毛榎尾山から一つ先に1271の白いピークが見えてくるから、そこまで進ばしておけば明日は楽になるだろう。足を痛し痛しそちらへと向けると、山毛榎尾山から一旦下ることになる。昨年はここから登ってきたが、今年は雪がべったり付いている。しかし、鞍部から1271までは数の中は踏み跡を辿って抜けた。正面に大笠山と笈ヶ岳を見据え、南に真っ白な白山が眺められる絶好のテント場であった。夜は清月が流々と廻き、明日の快晴は間違いない。

翌朝、6時に出発した。5月1日まで体調を取っている吉岡君と吉戸君はテントを大笠山と笈ヶ岳の鞍部まで持ち上げて大笠山、奈良岳も登る予定にしていたから私達より後から動き出している。1271のテント場から下り、鞍の中にノワツチワと白いタムシバの味く稜線を描く行くと残雪が多くなつてもう地面を出している所はない。昨日の雨足の積雪が気になって一歩のところに三歩にしたりして足に負担がかからないようにして登山を続けた。正面に冬嵐山が見える広いブナ林の裾根で、見上げるとカモシカがじつとこちらを見ている。私達がそちらに近づくと分かっていたようで、そのカモシカはシライ谷の方へ逃げて行った。冬嵐山の手前からトラバースを開始。左下に冬嵐平を見ながら最短距離で巻き終え、最初のルンゼを登る。少し厳しい登りで冬嵐山の中のコルへ抜けると、んびりした隠れ谷になり、それを進むと広いシリダカ山で大笠山は笈ヶ岳に隠れてしまった。南に奥三方山の大きな三角形が見え、仙入嶽からの稜線が絡み絡みと繋がっている。先に笈ヶ岳が連つた。前方に三角の岩が見えるが、これは遊休して左の雪面をトラバースして回り込んで稜線に抜けた。雪が仙人窟と同じくらいになったから、もう少しの頑張りだ。稜線の東側は雪がべったりと付いている。それを進んで、山頂直下を少し回り込むようにして登ると雪原上であった。時計の針は11時を少し回っていたから、テント場から約5時間を要した。頂上だけ地肌が出ていてここだけを見ていると夏山と錯覚してしま

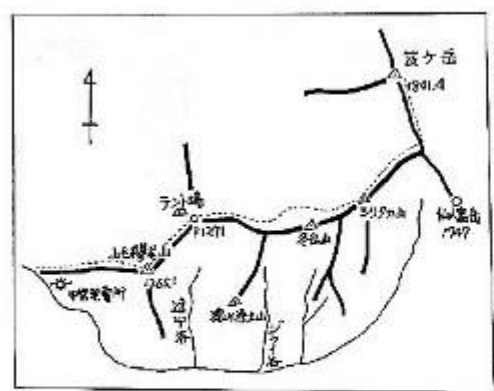


GAIA
キャンプ・ハイキング ザック

テトラ 48L	赤札 ¥9,000
アリゾナ35L	¥6,800

GAIA-JAPAN
ヨミスポーツ
〒563 大阪市天王寺区南船場4-70
TEL06(772)7231
FAX.06(779)2191

特長
① パラレル、インナーフレーム付
② スーパーウエストベルト付



う。とうとう今朝が道つて笈ヶ岳の山頂に達することが出来た。
明治38年に三角点設置のため登った折の点の記述は「三角点の設置のため登った折の点の記述は「三角点の設置のため登った折の点の記述は……」と書かれてある。これは現在東京国立博物館に納められているそうだ。また、山名の由来は笈を背に修験者が登っていたことからという。

三角点の横に登った人の名前を記した小ノ
「三角点の横に登った人の名前を記した小ノ……」と書かれてある。これは現在東京国立博物館に納められているそうだ。また、山名の由来は笈を背に修験者が登っていたことからという。
「三角点の横に登った人の名前を記した小ノ……」と書かれてある。これは現在東京国立博物館に納められているそうだ。また、山名の由来は笈を背に修験者が登っていたことからという。
「三角点の横に登った人の名前を記した小ノ……」と書かれてある。これは現在東京国立博物館に納められているそうだ。また、山名の由来は笈を背に修験者が登っていたことからという。

「内田さん」
藪の中から呼び掛けられた。藪から出て来たのは日本山岳会・関西支部の久松啓一氏、山下政一氏、佐野加子さんと達のパーティであった。
「藪を6時に出て登って来ました……」
という言葉にこちらにはびっくり、その勇力に驚いてしまった。
暫くして吉岡、吉戸パーティも後縁に飛び出て来た。彼等とはここで別れ、私達はシリダカ山から清水谷側を下って冬嵐平へ抜けて帰った。
次の日は、朝から小雨のぱらつく大抵で白山は雲を被りかけていたが、もう登った後だから、多少の雨は気にならず山毛榎尾山を登り返して下山した。
平成3年4月27日(20日歩く)
△参考タイム▽ (4月27日) 中宮尾山所10・50 西谷池口 15 山毛榎尾山14・00 15・00 1271のピーク15・40 (道) (4月28日) 1271のピーク6・00 冬嵐山トラバース道8・00 シリダカ山9・25 笈ヶ岳11・15 12・00 1271のピーク16・00 (道) (4月29日) 1271のピーク6・00 山毛榎尾山7・00 17・15 中宮尾山所9・00
地図 2万5千1:1原

稲ヶ谷から

雨乞岳

昨年6月初旬、用あって鈴鹿スカイラインを經由して湯の山温泉に出た。この時、スカイラインの途中で稲ヶ谷出合に立つ指導標が眼に止って降車した。雨乞岳の由来や案内板など土山町の手で親切に整備されている。

鈴鹿半島の中で雨乞岳は距離的にも時間的にも不便な山で、未踏でありいつかは登ってみたい山だった。母毛して登山日記をみると鈴鹿の山へは、3年前の5月3日の竜ヶ岳以降登っていない。更に以前、織阿山から歩いた雪冠の雨乞岳のパノラマ写真をみるにつけ無性にこの山への登行欲に突き立てられた。そんな訳で2週間後、稲ヶ谷から雨乞岳に取り付いた。

一般的にこの山へは、武平峠からクラ谷を

小休後、指導標に導かれて谷を渡り、稲ヶ谷左岸につけられた新しい山道をゆくとすぐ谷に下り飛石で通行。やがて3段階の水木谷の滝に出くわす。大した滝ではないがこれを越すのに一苦労。左岸路み跡を滝上部に出てほぼ垂直の岩を滝の落口に下るか、または滝の右の岩をへつり一気に落口へ股くかの何れかであるが慎重な行動が必要である。

谷は小川の多い流れとなり適宜に石を飛びながら進むと左に指導標が立ちあき道がある。この巻き道は上流にある稲ヶ谷大流と東稲ヶ谷出合を隔すく道であるが、登るに従ってつけられたジクザク道であるが、登るに従って傾斜はきつくなり最後は木の根や小枝をつかんでの登りである。樹々の新緑が美しく、谷は相当下に見えている。この紀行の投稿に際しては月下旬再度この谷より雨乞岳に登ったが植葉が枯れ落ち跡や成と成樹が露樹状に映望され6月とは違った素晴らしい眺めだった。

登りつくると原らな杉の林で指導標があり右に折れてゆるやかに下っていくと再び稲ヶ谷に降りる。ここにも指導標がある。谷の上流に向かい、左岸、右岸につけられた踏み跡をテーパーやビニール紐を巨印に忠実に踏まざる。池や淵もなく溪谷はたどとほしく蒸

酒井賢治

鈴鹿

つめて登るコース、愛知川源流をつめて杉林から登るコースがガイドブックなどで紹介されており稲ヶ谷からのコースはあまり紹介されていない。ナカニシヤ出版の「鈴鹿の山と谷(全五巻)」にしてもこの谷は、難路とされ詳しく紹介されていないが決してそうではない。武平峠、稲ヶ谷出合間に余計な時間がかかるが、それだけに変化に富んだ山歩きが楽しめる。

6月15日、午前5時半、長男進雄のマイカーで自宅を出発。国道163号線を極止して信濃街道を走る。道中、機車のあった信濃高原鉄道跡の事故現場には犠牲者を顕彰する真新しい祠が建立されていた。死者の冥福を祈る。水口町から日野町への有紀街道を通り右に

して地味で素朴な谷であるが周囲を覆う樹々の新緑が美しい。出合から約50分たつて谷は二股になるがここにも指導標がありこれに導かれて右の谷をゆく。流れが左右に分れた中洲や左岸、右岸につけられた踏み跡を登ってゆく。所々にかわいいうるが備わっていてほほえましい。適宜な岩に腰かけコーヒを飲む。周囲は清流の音のみ、樹々の緑はいよいよ深く、空は梅雨には珍らしく青空が広がっている。つくづく山が好きになり良かつたと思う静寂の一時である。

休憩後、再び廻行。ガイドマップではこのあたり(赤マーカー)がつけられているがテーパーやビニール紐に注意して踏み跡をたどればまず迷うことはない歩きやすいコースである。前方高く樹間から東雨乞岳と雨乞岳を結ぶ後線が尾尾根状となり眺められる。V字状の谷はそんなに狭くはないが水の流れは徐々に細くなりやがて源流近しを思わせる。

いつのまにか道は谷から離れクマ笹が現れはじめる。岩のゴロゴロした道を歩をかき分けて登ったり、砂ザン道を登登する。きつい傾斜だ。しかし、登るに従って傾斜は少しずつ開け、後を振り返れば鈴鹿南部の山々が霞んで見え、前方には橋入を配した笠野原が開けてくる。途中、蒸気出来そうな小水地があり、

東雨乞岳より雨乞岳を望む



折れて大河原を目指す。途中、織阿山が水無山や竜ヶ岳をへてえ立派。眺めを眺め、大河原に入り野洲川ダムに沿って走る。鎌ヶ岳が鋭い岩壁をのそかせている。スカイラインの料金所手前に7時すぎに到着し、ここで息子の自転車を見送る。料金所を通過し溪谷に沿って15分程歩くと稲ヶ谷出合にかかる踏み跡につく。早朝の足跡らしに一度よい距離であった。

尾瀬

◆水芭蕉の尾瀬を歩く 3泊4日大飯夜巻
出発日 5/21(水)・26(水)・28(木)・4(金)・8(月)・11(木)
金 費 48,500円より(交通費・宿泊2泊8食)
水芭蕉の花巻を2日間かけて歩く一般コースです

◆花の尾瀬とランプの宿大飯夜巻
出発日 7/2(木)・8(金)・13(月)・19(木)
金 費 51,500円より(交通費・宿泊2泊8食)
7月後半山小屋が花開くベストシーズンです

◆至仏山のお花畑と駒ノ瀬 7/2(木)・5(日)・13(月)・19(木) 51,500円より

◆東北最高峰・雄ヶ岳登山 7/23(木)・29(水)・8/2(金) 51,000円より

◆会津駒ヶ岳と檜枝岐 7/23(木)・29(水) 53,000円

◆夏休み尾瀬ハイキング 7/23(木)・29(水)・8/2(金)・12(月)・19(木) 48,500円より

旅の本棚 企画室 ☎(06)232-3000
〒540大阪市中央区高野橋4-5-13 美屋橋キンドビル(大塚内科会館115号)

募集 社員 嘱託社員

山旅・研修・京都等への旅行会社

- 尾瀬・アルプス等の山岳経験者歓迎
- 男女正社員大卒22歳以上可
- 福利厚生が優位
- 給与当社標準
- 残業手当・交通費支給

ニュージャーランドハイキング

出発日 5/21(水)・26(水)・28(木)・4(金)・8(月)・11(木)
金 費 15,500円より(交通費・宿泊2泊8食)
会費(30名以上) 365,000円(1泊1食)
1泊1食付

山岳部 尾瀬ハイキング部 尾瀬ハイキング部
山岳部 尾瀬ハイキング部 尾瀬ハイキング部
山岳部 尾瀬ハイキング部 尾瀬ハイキング部



東雨乞岳より見た岡見岳・御在所岳・鎌ヶ岳(左より)

山腹に沿う道となり後を振り返ると今杖登ってきた雨乞岳と東雨乞岳が遠く霞んで見え、暗い杉林を抜けると眼前に鎌ヶ岳が姿をみせ杉の若木とカヤトの道を下る。このあたりで昼食にする。下にはスカイラインを通る自動車道の音が聴かれ静寂から現実にもどされる。

旧大河原道合点から左へ折れ峠谷の石礫と砂アレを通るとスカイラインのトンネル西出口上部から武平時に至る広い道に出て左に少し登って武平時に1時間前に到着した。

御在所岳前面の巨大な山肌が視野一杯に広がりがついで登りたくなる。しかし、いつの間にか天候は悪くなり山肌がガスが捲きはじめている。また次の機会に登ればいいと自分に言い聞かせた。

武平時からは東へ旧湯の山道を下る。トンネル東出口スカイラインの下をくぐる。後は右に溪谷を見て湯の山温泉まで下るのみ。時々スカイラインが近づき空気がこわれるが迷うことのない一本道で気分的に楽だ。御在所岳道合点、三ツ口谷合点をすぎ一の谷茶屋に着く。ここからは平凡なアスファルト路、前方は湯の山温泉の旅館街、後ろを振り返ってみるとV字形の谷上部分ほどがガス



ワツバ

に消えていた。午後2時半すぎ湯の山バス停に無事下山。バス停前の温泉(700円)で汗を流し、身もさっぱりとしてバスの客となる。

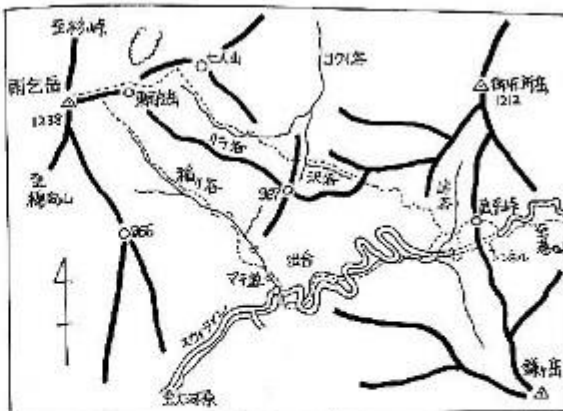
(平成3年6月15日歩く)

△コースタイム▽

湯の山バス停(2時間) 武平時(1時間) 三ツ口谷合点(2時間) 岡見岳(10分) 東雨乞岳(2時間) クラ谷を経て武平時(1時間30分) 湯の山バス停

△地形図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

※マイカー登山の場合、鎌ヶ谷合点で数分、武平時に駐車スペースあり。



再び濃い霧雨が右手すぐ近くに流れている。愛知学院大学WV部のポールが立てられている。更に急登一刻、やがて大岩の下に出て左から通り込んで岩の上に立つ。

雨乞岳と東雨乞岳の間の山肌がゆるやかに傾斜谷に下っており、あたり一面新緑のスロープである。(12月登行時、東雨乞岳斜面近くで動物歩行の音がしたので、一服と気味悪くな

り自分の存在を示すため思わず口笛を吹いてしまった) 大岩からは縁線がすぐ近くにみえるがこの間ほとんどクマ笹のトンネル道である。骨太のクマ笹が雪の重みのためか下方向に倒れて密生しているため、かき分けるとに苦力させられる。やがて後縁上の緩走路に達するとそこは一面笹野原、まず西に向かつてクマ笹の口につけられた緩走路を所々に出ている岩に注意しながら登るとわずかで雨乞岳山頂についた。

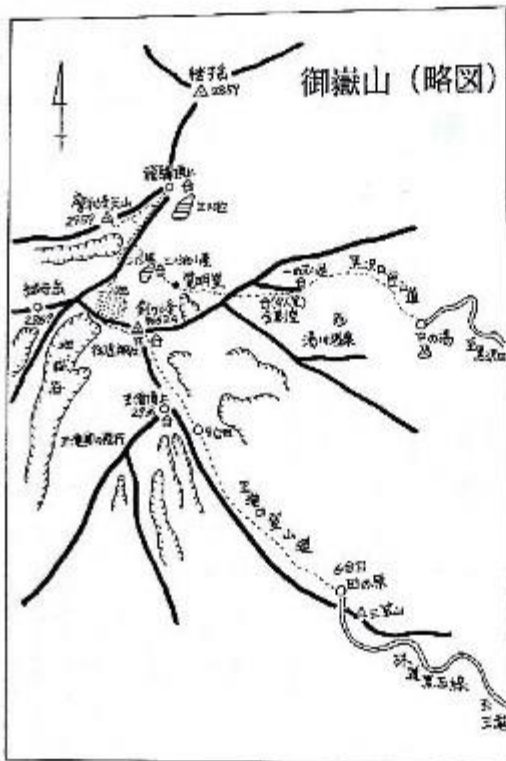
山頂からの展望は360度とはいかないが東から南方向が開かれ素晴らしい景観である。近くに東雨乞岳がゆるやかなカーブで悠然と座しており、その向こうに鈴鹿主稜の釈迦岳、岡見岳、御在所岳、鎌ヶ岳さらに鎌ヶ岳が連なり台地状の岩指路岳や双耳峰の仙ヶ岳も鮮やかに見えている。西側は樫木とクマ笹が繁っているが踏み跡を少し下ると展望が開け、ゆるやかな笹野原のスロープの向こうに御在所岳が大きな山容で根を張るように横たわっており、遠く湖南の山々や近江平野が假んで眺望出来た。さすがに鐘鹿でも最奥の山山の真つ中にある感だ。

9時半すぎ雨乞岳を出発、再び緩走路を折り返しのんびりと東雨乞岳を目指す。東雨乞岳に近づくと北方向の展望が広がる。9

時45分頃山頂到着。この山の展望は360度全開で全く素晴らしい。鈴鹿主稜の山々はいよいよ近く北側は愛知川源流の谷の向こうにイブネ、クラシの平野原さらさらと遠く竜ヶ岳、御池岳、鷹ヶ岳がはっきり確認できる。西側は今迄つてきた雨乞岳が大きな山容を誇るようになり座して来た。冒険十分の山である。この広い東雨乞岳山頂に今いるのは自分一人。私は広い眺望と静寂を存分に楽しんだ。

10時40分、東雨乞岳下山、小径の道から樫木帯に入ると展望もなくなり凹状に掘れた下りにくい道や凹状の凹につけられた踏み跡を踏むにつれ、なごりながらたどった。

やがて七人山との鞍部に達し、新緑の樹林を少し歩くと指路標に従って右に折れてクラ谷源流を下る。ここで今日初めて人に会う。女性の単行だった。源流は徐々に水量を増し、岩を滑って谷らしくなり左岸、右岸と下ってゆく。左から小さな谷が合流し一層溪谷らしくなる。足元に注意しながらあたりの新緑を眺め、のんびりと歩く。2人目の登山者に会う。途中、クラ谷から離れ右へ山肌につけられた道を通り込み、小さな崖根を越し下ってゆくと沢谷合点。これを下るとコクイ谷となる。武平時へは沢谷を渡り左岸に沿ってつけられた山道を登る。いつしか道は御在所岳西南



として山中に祀ったのが御神神立の御嶽といわれており、山中に約2万基の御神神立があるといわれている。そして山中に神位適合の御嶽を見ることが出来る。

下山の日の午後おそく私たちは御嶽山から鳥走峠を越えて奈良平宿に二泊して、それぞれ帰宅したのであった。

(完成2年8月4日〜5日日本)

▲参考タイム▼

木曾御嶽山 田の原10:00—大江大橋見10:25—合目11:00—11:25—合目12:00—王滝山頂12:55—13:20—刺ヶ岳13:45—14:05—ノノ池小屋新道合目 6:00—2700—針ヶ近7:45—8:10—合目8:35—1の又小屋9:05—中の湯9:30—木曾御嶽山(急形) 2万5千—御嶽山、王滝山

地域に合った品揃えを目指しています。
三重県唯一のプロショップ
登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。



営業時間 AM10:30~PM8:00 毎週月曜日定休
三重県四日市市諏訪町13-3 TEL 0593-54-0627



御嶽山山頂

御嶽山山頂。四季に樹あり、雲霧といふべし。山に登るに、西風にして寒あり。夜中、炬を照して峰に至る。炬あり、金刺童子といふ。こゝに廻りて天明を待。此辺五粒松多し。枝を垂て丸葉の如し。これを名づけて御嶽といふ。盛夏といへども、山頂に積雪あり。朽木生せず。又三風登れば積雪に至。一祠あり。一を三子産湯といひ、一を日産湯といふ。其西北の峰に三祠あり。……其東の峰に三池あり。

り。……其北を湯敷谷といふ。湯敷谷多く、溪川ありて、玉滝にいたる。濁川といふ。……山上に一草を生ず。葉形葉に似たり。小花咲て、扶桑葉のごとし。色紅紫なり。名づけて御草といふ。……と記している。

明治6年(1873)イギリス人のウィリアム・ガウランドとエドワード・テイコンの2名が登り、ウォルター・ウェストンは明治24年(1891)と同27年(1894)に二度に渡って登っている。

私が初めて御嶽山へ登ったのは約30年前の初夏であった。車で八海山折くまでゆき、そこから三笠山を越えたが風雲の急登、山した。その後大噴火をはきんで夏に三笠山を登っている。一昨年の夏友人達と登ったのは8月4日から6日にかけてであった。東京を夜行で発り、田の原バス停を出発したのは朝の10時で快晴の日であった。

白木の講中登山者に混じりながら徐々に高度を上げていった。今日の登山道の傍らにはうたれた残雪があった。上に見える山小屋は三笠山頂上で、左に見える地獄谷から白い噴煙とその響きが聞こえてきた。ここから最高峰の刺ヶ岳へはゆるい傾斜にたれた磐石の斜面を登り、山小屋の裏手の石段を登ったと

ころが山頂で、四方の展望が大きく広がった。山頂には石像や御神神立が所をまじと並び立っていた。北嶺のすぐ下にノノ池、水のある二ノ池が見える。今夜の油りは二ノ池畔にある山小屋で二々五々に下ってゆき、午後の余った時間を利用して勝利支天山へ往復した。飛騨頂上を見ると地形図上で見たより、距離があったので登山をやめて小屋に戻った。

下山路は黒沢口にとった。広大な山頂を背に下ってゆく気分は悪くなかった。王滝口に比べてこの登山道はゆるく歩きやすい。しかし下るにしたがって木が横に置かれているので、雨の時は滑りやすい。女人堂をすぎれば樹林帯に入り、登山道がトラバースぎみに下ってゆくといふ又小屋に着く。大きな旋風風の山小屋の土間に床机があって、それに座ると冷たい風が身体を冷して呉れる。軒先のマネオが風にゆれる光景を見ていると江戸期にまよい込んだ気分になってしまった。ここから右下へゆくと湯川温泉へ、中の湯へは一投足の距離にある。中の湯から木曾御嶽山へはバスに乗った。

御嶽山へ登っているとき一種異様な宗教的雰囲気の中に入る。そのひとつが山中に多数ある御神神立である。それは皆明、普賢行者は死後その靈魂の安住の地を御嶽と定め、魂を神

野外塾

●草花遊び

二名良日

遊園かたなびき、コブシの方音が廣り、ウグイスの所が谷にこだまする……昔から初夏にかけての山行は、縁起物を迎える心地です。薄霧に隠れ、下界の風俗を遠眺し止まなかつた、中国伝説の彼の登山子でさえ、春の野山の美しさに比べたら、選挙の喧嘩などクソクソだ、と、自白しています。

運り取り見取りの楽しさの中から、自然の草木を即興的に素材化し、作り遊ぶ「草花遊び」に的を絞って観察しますので、「草花あそび事典」(藤本浩輔著、くもん出版)などで、詳しくフオローして下さい。

《花形》ツバキの萼花にツルを通してネットレスに、レンジを編んだ花形も。

《花人形》タンポポなどの花茎に、十二単衣のように、ギンギンなどを重ね着させます。

《葉笛・草笛》ツバキやマサキの葉を丸め、片割をつぶして、柔かいツタ葉などを上唇に当てたり、左右に押え吹く。タンポポやムギの葉を短く切り、片方をつぶして、カラスノエンドウのさやを半切り、豆を除き吹く。ホオやイタドリを半切り、豆を除き吹く。アシ葉を巻いて、小口をつぶして、カンゾウやショウブ葉を細くきき、両手ではさんで、スズメノテトポウの穂を抜いて。

《益角力》スミレ花のかけ引き。カブバミの

筋を切り、オオバコの花茎のちぎりを合い。

《益角力》チガヤやカヤの真つ直な葉に、羽の部分の切り込みを入れ、指先でこく。

《飛行機》ホオの葉に飛行機の羽の形を合い入れて、ゼンマイの葉を巻いて。

《水車》イタドリに刻みを入れ、水につけると回り曲って、桶・杓・約物の工作も。

《虫笛》ホオやマサキを日穴をあけ、ススキのひげをつけ、キツネやタヌキの面を、中絶。ツバキの葉を一枚取ねし、両側を硬いクローマツ葉で刺し、空を開く。

《花笛》ハリエンジュの葉やコスモスの花などに日印をつけ、好嫌・人名を狭み出す。

《風車》六葉のホオ葉を半切り、皮に刻みを入れ帯を巻き、回るようにまた刺し込む。

《花ひげ》エノコログサやチカラシバの穂を、順みとり、二つにさいて扇下につける。

《信房》バラのとげや、ヤマノイモの葉を取って、ツバをつけて房上につけて天狗に。

《手裏剣》イヌマキの葉がった葉を、四方に折り組み合わせ、十文字手裏剣に。

《シヤラシヤラ》ナスネの穂を一つずつ引つ張り垂らして、何本か束ねて揺らす。

《魚船》オオバコやソラマエの葉を、雑指と入さし指でもみ、薄皮をはがして吹く。

《鉄砲》クズやフキやカラムシなどの平らな

大葉を、輪切りにした氷上に乗せて叩く。

《輪切》ヤエムグラの輪切葉をちぎり、筒にひっかけろ。

《花形》クズつるを花形に編み結び、ツワブキ葉をじょうろの形に、アザミ花に刺す。

《カエル釣り》カモジグサの穂をちぎり、揚げ船のような輪を作り、蛙を釣りあげろ。

《花形》コスモスの花びらを一つおきにちぎり、揚げ上げて飛ばす。オシロイ花も。

《花形》アサガオの花をハガキやハンカチにのせ、紙や布をあて強く圧する。

《葉ひしやく》フキの葉を葉柄の側に折り返して半球形に。マダキもやってる。

《輪切》タンポポの葉を半分はきき、筒に巻く。スミレなどで指輪もできる。

《ハイン》ムギワラを花形に小さく編んでいき、最後に一本の長い長い口を巻く。

《眼鏡》ソテツの葉の尖った方を刺しこんで輪を二つ作り、同様に刺しつないで。

《草まき》カヤツリグサの三角茎の両端をすくってきき、四角に広げると何枚も。

《毛ぬき》オオバコの葉とつけ根部分を二人で引きちぎり、毛が何本かをからかう。

《花形》ミヨウガやマンゴの末に、タケの節を刺し、馬に、ナス、キューリで動物も。

《輪切》ツクシやスギナのはかま節を一度

抜いて元に戻し、縫いだ所を出てる。

《草花形》ツワブキやサトイモやホオの葉を刺し縫いで、三角柱形の葉刺す。

《草花形》メダケで竹葉節を作り、シヤノアやヤブアやナンテンの葉を挿す。

《細葉》クローマツやソテツの細葉に、尖った穴をあけて通し、刺す。

《葉っぱ》クズやカシワの葉の葉先を上にして、葉脈に三本の糸を通じ、葉脈に。

《ひつつき》オオバコやセウダクサやコボウの葉を、腹に投げ合ひつつける。

《袋吹》イノコノシの葉やソラマメやドングリを使って、バランス人形を、その他いろいろあり研究を。

お知らせ

四月第二回野外塾
マサキフィールドアスレチックで
「アウトドア・スクール」開校!!
新年より準備が進められていた、奈良ドリームランドそばの、奈良フィールドアスレチックのキャンプ場をフィールドとする、「アウトドア・スクール」が開校した。以後、毎日曜日及び祝祭日に開催予定です。
奈良フィールドアスレチックは、その名の通りダイナミックな冒険フィールドアスレチックコースとして知られ、広大な敷内には池が三つもあり、また自然を残した二面のキャンプ・フィールドもある。これらを活かした気持ちの良い野外での楽しいスクールです。
たのびなるアウトドア・技術やクラフト、自然観察や野外料理、テントキャンプ、キャンプクッキングや虫探しなど……
子供会、学校、幼稚園同好会などへの相談コーナーも開設し、元気な子供たち、お父さんお母さん、キャンプリーダーたち、学校の先生など……の楽しく自由な活動を加えてまいります。
問い合わせ
〒630奈良市奈良坂 7-2-3
奈良フィールドアスレチックまで
電話0742(26) 1056

万緑の

大日山

だいにちさん

松田敏男

加越国境

越前甲より大日山を望む



仏教に由来している山名は数多くあるが、大日の名を冠する山は、釈迦と並んで最も多い。この大日山は石川、福井の国境にあるが、標高点は石川県にあり、その標高点は、九谷焼きの産地の地である山中町九谷から登る道が、よく踏まれているようである。

しかし私たちは、関西から近い福井県側より登った。北陸自動車道福井バイパスをおりて、東に進む。京福電鉄や九頭竜川と並行して走る国道416号線だ。永平寺と分かれ、越前本線の、のどかな電車と時々すれ違ふ、ゆっくりとした気分になる道だ。この界隈にはたくさんいい山がある。まず左手に見え出すのが冠岳と、全山緑の浄法寺山。九頭竜川を渡って右岸を走る頃より、前方左に

大日山がゆつたりとした大ききまで迫ってくる。この道の委にはミスバショウの咲く段立山、最長峰の大長山、大黒原の赤尾山など、魅力いっぱい山々がひしめいている地域だ。

特に望のついた大日山は、1300以上の山とは思えない、まことに堂々とした立派な風格のある山だ。九頭竜川支流の滝波川に沿ってしばらく北上し、416号線は登山口の横石まで通じている。私たちは野津又川沿いの道を奥へ入り、左手に神倉を見つけ、その前の小広の所にテントを敷かせてもらった。京都を21時に乗り、すでに日時はまわっている。鳥居の前には山より名水が引いてあり、細かいジャリりの水平面は絶好のキャンプサイ

トだ。狩犬さんに見おろされて、少々感傷しながら眠りについた。

翌朝は、車で林道を少し奥へと進む。道面がデコボコしてきたので歩くことにする。ほどなく、左側に福井工業大学がつくった大きな案内板が見つかった。そこが登山道入口である。草いされの暑い道だ。大学生がつくったのだろうか、道のつくり方に余餘がない。ただただ尾根の上につけられている。山腹をゆつくり左へ右へと折れながら、いつの間にか高い峰に着くといった、昔の生活道がなっ



かしくなる。昔からある道は、折り返しの所が少しくなっていて、ゆつくり休みながら、まわりの木々を愛で、山深くに来た喜びにひたることのできる。そんなひとときが山を登る楽しみのひとつなのだが、こういう直登ルートはそういう楽しみを味わうゆとりがない。この日に降雨後だったので、粘土質の道の急登は、より以上に歩きづらかった。木にロープをくりつけて、道にはわせてある所がいくつもあった。手が泥まみれになつてもすべつて服が汚れるよりはまだいいから、ロープにも頼りながら登った。でも登山道を切り開いて下さった先人に対して、感謝しなくてはいけない。だんだん乾いた道になつてい

き、ぐいと登りつめると、越前甲に着いた。

三角点のある立派な山頂で、標高は1320m。ここが福井県側の人たちの山頂なのだろう。見晴らしは非常にいい。白山の全景が大きく見渡せる。まだ多い残雪がほどよいアクセントとなつて、いくすじもの輪郭を描き、紺碧の夏空に輝かしい対比をつくつて光つていた。

大日山は全山緑の山だ。麓から見上げると、岩壁が荒々しく見えるのだけれど、歩いていく道からの景色は、草いされの浅い緑、樹林帯の深い緑、灌木帯に出てからの濃い緑と、体が緑色に染まってくよようだ。越前甲からは、いったん下つて別の山に登るような気分になる。一日の行程としては楢一杯の距離だ。尾根の上には雑木が多くて、ヤブ的な感じがあまり情運のない道だ。石川縣側の谷には大きな樹がゆつたり育っていて、まさに深山の趣きである。もし時間が許せば、ブナを中心とした広葉樹林の中をさまよつて、山の香気、雲気を身体一杯吸いこみたいところだ。そしてこのような山中で一夜を過ごせば、ずいぶん人柄が変わつて山を降りられるのではないか、などと思つてみたりする。明日の仕事のことが無意識下にあつて、ただただ登山道を往來するのみだ。

山頂までは、だらだらとした登り降りがある。疲れやすい行程だ。左手にずんぐりとした形の丸い山が見える。その頂上には小屋がある。甲山と大日山小屋である。細い道を登りつめると、山中からの道に合ふ。大通りに出たという感懐を持つたろう。道幅の広さの違いから、この山は石川県の山だと判別できる。

大通りを左へ行くと大日山、山頂へは右へ曲がる。そしてやつと本山の頂上、1368mの大日山に着いた。頂上付近にはナナカマドが多く咲いていた。越前甲は、水がまわりにあまりなく、一段高みに上がっているという感じで屈指感があったが、本頂上は広すぎで、灌木が広がり、すわつてしまうと木々の緑と青空だけになつてしまった。大隅がさんと降りそそぐ暑い暑い頂上だった。

帰りは往路を戻る。大連りから左へ世がる小道を見落さないように注意する。細かい登り降りが少々こたえ、最後のズルズル泥道降りて疲れた体にとどめをさした。

平成7年6月17日歩く
ハコースタイム
横倉(2時間30分) 越前甲(1時間30分) 大日山(1時間30分) 越前甲(1時間30分) 横倉
地形図 2万5千1:164 熊谷
5万1越前勝山 永登寺

丹後七姫と

磯砂山

多摩雪雄

丹後

磯砂山頂の天女像



天女が舞う丹後大宮
丹後ちりめんの里として、夙に知られた、この地方の中心地大宮。櫻光神社に乏しい故に、小野小町ゆかりの里（最終の地と伝承されている）として、小町の墓のある妙性寺に資料館や公園を整備したり、駅舎を失楽の白壁の、湖風建築に改装したりして、観光客誘致に熱心である。

駅舎の欄間に嵌め込まれたスタンドガラスには、十二単衣の小野小町と、飛騨する天女が美しく、構内の二階には「小町」という茶房を併設して、現代七姫のひとつりの丹後姫が、淑やかに応接してくれ、店内も垢抜けした清潔な洗練で、婚の境れてくれるコートも、殊更マイルドな感がするのである。

丹後半島の北端、丹後町に、間人という小島がある。聖徳太子の生母、穴穂姫の間人皇女が、大和政道不安の頃、一時隠棲され、村人のもてなしに感謝して、御祭宮の指に、大浜の里に昔をどめてし間人村と世々につたへん」と、詠まれて、村名を賜った。と、され、七姫の筆頭である。近時、丹後温泉が湧出した。

関ヶ原後の際、石田三成は諸大名の妻を人質として大坂城に入れたが、細川ガラシャは、恥せず自刃する。時に慶長五年（1600）。それより前、本徳寺の妾で、織田信長を執逆した明姫光秀の娘として、大、細川忠興に三年間も幽閉されたのが、弥生町の山奥、味土野郷落で、現在三戸だけの棚田地である。

二人目の姫。
しづやしづのをだまきくりかへし昔を今になすよしもがな。評詞前が、義経への慕情を、鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮に於て、頼朝の前で舞うたった話は有名であり、生んだ男児を出比ヶ浜に沈められ、静だけが涙を許された。生後及び出生地不詳なれど、京都の

白拍子として、義経の妾となる。此処、総持町五色町の講堂落にある神社は、彼女を祀つたもので、此処で出生、二十歳歳の生涯を閉じた地である。と、される。三人目の姫。

平安初期の漢字者、小野原の妹とも、孫とも伝えられる六波仙の一人である小野小町は、出羽の郡司の娘で、絶世の美女といわれており、各地に、晩年の老さらばえた、敏くちや小町の伝説が残るが、生後及不詳である。その作品は爛漫な表現法で、後世の恋歌に影響を与えた。古今集や勅撰集及び八町集に収録されている。大宮町五二河は、小町一族の荘園であり、小町山妙性寺に、小町の墓がある。

る。四人目の地。

西国筑紫へ流された瀬川の領主、岩木正氏の子として生まれながら、生母と離されて人買いにより、丹後出長港の長者、山庄権三太夫に簡便され、弟の厨子主を逃したために、安寿姫は殺されるが、厨子主は、後に、父の無実を晴らして家を再興し、山椒大夫等前した後、母と再会する。森蘭外の「山椒大夫」や、津路藩に取村されている。劇中の飢饉には、手厚く非られた安寿の詞がある。五人目の地。

伊根町本社の、宇良神社にある乙姫の小袖や玉手箱と、その内容物は、まるで近年作の

ようにじかじかであり、信州木曾川の松原床の、瀬川寺境内にある宝物庫の、御島太郎の袴や魚船その他は、如何にも作意溢然たる、古色ボロ品で、桃太郎伝説と同様、各地に散在するが、伊根の御籠、浦嶋子に思いを寄せた直能伝説や、講堂の乙姫の遺話に、此地の方が似合っている。六人目の地。

七人目の姫は羽衣天女。久米仙人の降臨話とは逆に、水浴中の天女の衣を隠して、家に連れ帰り、女房にしたり、娘にしたり、という説話は、一番多く各地に伝承され、丹後近くの奥津賀野の会津浦にも、現存する何代目かの羽衣の柳と共に、伝承がある。が、此

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 北アルプス地図 | 34 飯倉山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝日・出羽三山 |
| 3 鹿島越・黒部湖 | 36 鳥辺山 |
| 4 高立山 | 37 越王 高立山・黒部湖 |
| 5 上高地・信濃高 | 38 兼崎・早稲野 |
| 6 黒部高原 | 39 八幡平 妙高・黒部湖 |
| 7 御岳 | 40 十和田湖 八幡平 |
| 8 伊豆山 赤松山 | 41 二セコ・半蔵山 |
| 9 本嶽新・空木嶽 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒・北岳 | 43 白山 |
| 11 冠峰・志石・黒岳 | 44 富山・伊吹・黒岳 |
| 12 妙高・戸巻 | 45 御石所・鏡ヶ岳 |
| 13 志賀高原・草津 | 46 北陸山系 |
| 14 鞍馬山・茨城 | 47 京畿北山1 |
| 15 西上野・妙高 | 48 京畿北山2 |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰 | 49 京畿西山 |
| 17 八ヶ岳・野村 | 50 北原の山々 |
| 18 富士・富士五湖 | 51 大甲・早稲・竹馬 |
| 19 箱根 | 52 尾崎高原・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 会館山・岩手山 |
| 21 丹波 | 54 紀伊高原 |
| 22 高尾・阿蘇 | 55 奥多摩 |
| 23 大宮・奥多摩 | 56 大峰山脈 |
| 24 奥多摩 | 57 大赤ヶ岳・大赤ヶ岳・奥多摩山 |
| 25 奥多摩・秋久 | 58 赤目・御蔵野高原 |
| 26 奥多摩・秋久・奥多摩山 | 59 水ノ山山脈 奥多摩 |
| 27 奥多摩・秋久・奥多摩山 | 60 大山・深山高原 |
| 28 谷川原 奥多摩山脈 | 61 四国山脈 |
| 29 船後三山 奥多摩山脈 | 62 石鎚山 |
| 30 奥多摩 | 63 洛陽の山々 |
| 31 日光 奥多摩山脈 | 64 九郎・阿蘇 |
| 32 奥多摩・奥多摩 | 65 箱根・奥多摩 |
| 33 奥多摩・奥多摩・奥多摩 | 66 奥多摩山脈 |

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3232)2141(代) 〒100
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(533)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・新潟・千葉・高松・広島
名古屋・金沢・京都・広島・福岡



新築成った丹後大宮駅にて(筆者)

媽、峠止町と大宮町の境をなす、磯砂山の女池に、天下った七人の天女の、想像する水浴図は、垂簾物であろう。磯砂山の流域にある乙女神社は、天女の娘を祀り、大呂(大略)の安達家は、巫衣天女の末裔といわれ、七夕伝説にも関係がある。と、される旧代より伝わる数々の家宝がある。年一回開扉。

好望明・磯砂山

さて、この年3月初旬は、丹後半島海近く
の山々は、雪多く、太鼓山周辺を開拓したス
イス村や、酒肴童子の大江山、その他の京都
のスキー場のリフトは、フル回転であった。
平成2年秋、ヘリコプターによって運搬さ
れた、陽刻天女の大彫刻石や、巨大な展望台
が設置された磯砂山頂の、広大な森林地には、
その後、霧草子や、展覧館が設置され、大宮
に通ずる北東線の開発も行なわれる。即ち、
大成からの峠山町一巡が可能となる。
さて、5月、その大成の登山口に、北近畿
タンゴ鉄道の峠山駅から、予約したタクシー
を連れて入山する。

磯砂山沿いの国道312号を南行する。と、
天女の羽衣を隠して連れ帰り、こき使った揚
句、放り出された天女は、天に昇る術もなく、
弥栄町の山奥に通り着き、その船木の里で
亡くなった。と、されている。その、不屈き
な老産の住む比治山道と分れ、大略、乙女神
社と過ぎて、大成には下度山時に着いた。
大蔵川に架かる橋のもとに「いさな」登
山道とした標示があり、上手に、図上記載
の一群の民家がある。
川沿いの林道は、この時整備中で、一般車
輛通行禁止であったが、現在では、もう終点

迄運行可能となったであろう。と、思われる。

25分歩いた頃「山頂へ約2時間、いさな
ご登山道」の標示があり、林道開削以前の歩
道である。此道は、300mの計測線と入山す
る棚後から、旧登山道が、法標473の南側
を縫って、峠まで新道に合する。
更に、赤割付肌も現わな両岸の間を15分
林道は終わった。

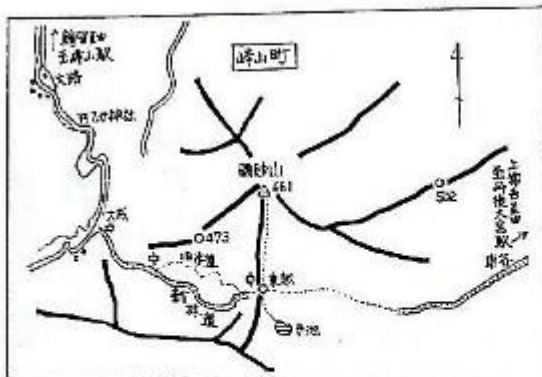
地図の破線は、乗越へ向かって真東の谷
を踏め登るが、新林道は、370mの圏で真南
に分れる沢に僅か入り、すぐ東への沢筋とな
って、ツメの二俣が林道終点である。登米殿
道によって、常道林道と結合するであろう。
と、思われる。

この林道終点は、後記する女池から、図上
西北西1°の地点であり、ツメの左設の土堤
を渡ってから登木段780段、そして又ツメ
を渡り、約10分乗越に出る。新設の指標標が、
頂上へ460m、女池へ280mとあり、別
の角柱には、足立山と書かれている。

乗越から北へ向かうと、テラ属とレンゲツ
ツジの口を、更に680段で見晴らし台に出
る。

南無妙法蓮華経四面塔があり、杉の平山道
から、尚も850段で着いた磯砂山1等三角
点660・955の頂上は、日本最古の羽衣

平成3年5月10日 歩く



伝説発祥之地として、前述の如く整備され、
料米は山上園地として、開光を降びるのであ
らう。
思はるかす丹後の山嶺は重嶺として、天ノ
橋立まで手に取るような、呼吸の止まる思ひ
の展望が得られる。
さて、あまりの明快さに、思わず1時間も

の長居をした山頂を、15時4分に降り、峠か
ら5分の女池に来ると、杉木立に囲まれた小
きな水溜り、天女の羽衣よろしく、紅白の
布が、あちこちの枝に垂れ下がっていた。
女池の伝説は、大宮町で昨秋建設した案内
板を概略すると

「丹後社右の山頂磯砂山に井あり、真井、
女池といふ。天女降りて水浴す。和雲宮の老
夫、天女の衣を盗し、無理に連れ帰りに財を
成したる後、放逐す。天女、竹野の船木にて
死す。里人、奈具社に祀る。これは豊字宮能
亮命、即ち伊勢外宮の豊受大神なり」
と、きわめて格調高い伝説と、している。

峠(乗越)から東への木段を下ること約15
分、林道終点に出、以後、ぶらぶら歩いて
40分、常道(奥津路)の車谷の旧名主宅から、
再び呼んだタクシーで、大宮駅には15時30分
に着いたが、素晴らしい行路であり、列車待
つ間の一刻は、豊饒な天女のもてなしに接し
たのであった。

丹後風土記には「伊玉彦子山」「足の浦山」
等と記され、女人禁制の山であった。と、い
い、車谷には、今でも轍を踏む、と、いう。
さて、大成から常道に越える時が無名なのは、
不便であり、常道時では余りにも味気ない
羽衣峠、というのは如何なるものであろう。

世界の地図が揃う
地図専門店
マップラン

- 地形図●海外地図
- 古地図●道路地図
- ガイドブック

〒640-0118 和歌山県和歌山市、ロイヤルホテル4F
TEL・FAX 2315446

▲コースタイム▼略(文字を参照)
▲地形図 2方5千1四辻
▲問い合わせ先

峠山町後山	07772 (62)	4111
大宮町後山	07772 (64)	2400
峠山タクシー	07772 (62)	0018

京都北山 四 花背・広河原・京北町周辺の山

新緑から初夏へ、さわやかコース

北川裕久

初夏等は、少し広範囲ではあるが花背以北と京北町の山々を6コース紹介しよう。5月の新緑から6月の梅雨入りにかけて北山の峰々は刻々と緑が深まる。5月初旬に歩いてきた谷筋も草いきれが濃く人を拒むようになる。しかし秋の北山と同様、新緑の中を歩く快楽に沢山のハイカーが訪れる。

鞍馬街道を北上すると鞍馬を過ぎて、急なつづら折れを登りきると花背峠につく。花背方面へ下ってゆくと西に霊取山の稜線が、東には杉峠から張り出す大見根根の穂やかな稜線が見える。花背は別所・大布施・八瀬・原地の四集落からなっている。別所は数年前まで長閑なカヤぶき屋根の農家が目立っていたが最近、モダンなアトリエやレストランが建ち、

スキー場も開闢となった。今、京都市の総合スポーツランドが建設されようとしている。別所町にある徳田寺は曹洞宗の佛刹で、元は叡山三千坊の一つといわれた天台宗であった。この寺には金剛剎毘沙門天立像があり、高さ9尺の「黄金の仏」である。この仏像は岩谷村附近の経塚から発掘されたものである。

別所の西には霊取山があり、一ノ谷、二ノ谷、三ノ谷とそれぞれ違ったルートが楽しめる。花背高原の秀峰である。さらに北へ行くと大布施に入る。ここは明治初年頃まで木材を桂川へ筏で流してきた所で、川の深い窪みは今も尚、当時の姿を止めている。ここで西へ桂川を下れば山国から岡山へ、川を北上すれば

八瀬へ入る。八瀬は、お盆の行事「松上げ」が有名な所で、8月15日の夜、近くの岸辺で高さ20尺の松丸太の先に大笠を取りつけ、その中に松葉を入れ、地元保存会の人達が、あげ松と呼ばれる燃明に火をつけ、大笠めがけて投げ上げる。暗闇に光の軌跡が美しい。これは五穀豊穡を祈願する神事である。八瀬の北は原野町であるが、その東に北山の名刹の一つ大徳山徳正寺がある。大徳山には屏風岩、鷹石、両界岩など奇岩怪石が多く、修験行場として有名である。又、周囲の山々には佛塚が点在し、桑谷山もその一つで別名、経塚山と呼ばれている。原野町の西には片紋山や井ノ口山があり、樹齢400〜500年の天然伏木杉が尾根の所々に点在し、保存木として残されているものも多い。この周辺には良材が多い事から、その昔、木地屋の集落が点在したという。朽下屋という地名もその名残りであろう。又、西側の片波にも幾つかの木地屋があったと聞く。さらに上桂川を北上すると広河原へと入ってゆく。下之町・菅原町・尾花町からなり、北は美山町の京大演習林が広がり、西方面は廣村八丁周辺の起点となっている。ここまで来るとバス利用の目星り自行は限界で、帰路のバス時刻を十分確かめた上で行動したい。廣村八丁方面へ

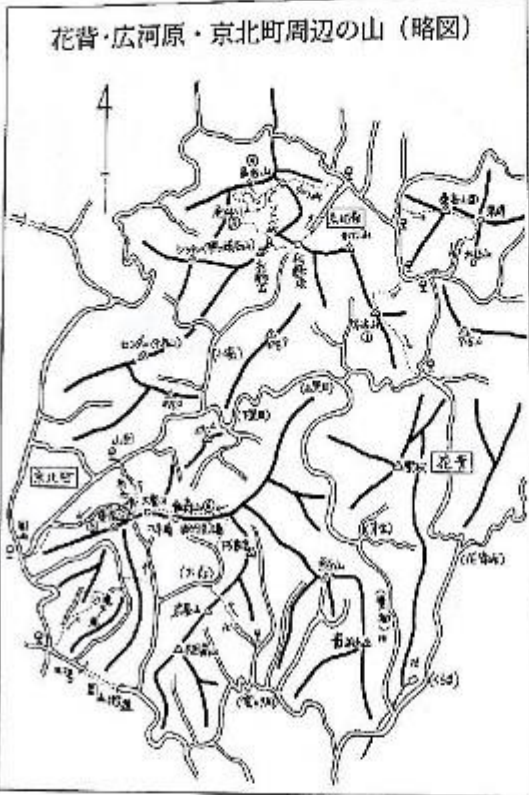
は幾つかのルートが開かれており、北山を歩く上で最も人気の高い山域である。文明の波に耐えかねて故郷、八丁を離れようとしていた人々に追い打ちをかけるように、昭和9年大宮が八丁を襲った。それから7年後の昭和16年に八丁は廃村となってしまったのである。今では崩れた土蔵と墓壇、井戸跡や家屋の石垣等が残り、八丁人の歴史

として残っている。当時の苦しみや悲しみは今、八丁を歩くハイカーにとって何か廃村というロマンめいたものを感じとらずにはられないような気がする。

さて、上桂川を大布施から下流、山国方面へと向かう。川幅も広くなり夏には枯釣りでも賑わう。上黒田、下黒田を過ぎると井戸に着く。ここから、小坂川に沿って北上すれば

村八丁へと道が続いている。小坂川沿いには山の家や良宿があり、日暮に余音があるならば八丁方面への宿山行を薦めたい。

山国といえは常照寺の桜が最も有名で、天然記念物に指定された丸重桜や左近桜が北山の名刹に恥じぬ格調高きを見せている。山国から南方に見える尻根は城戸町尾根根といひ、飯塚山の尖峰が一際目を引く。



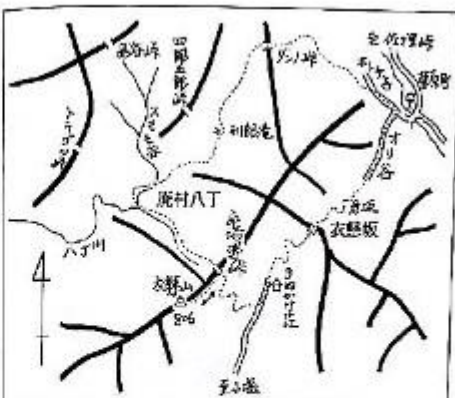
天童山の南の鞍馬、若春時から山国へ下っている道を竜ヶ坂といひ峠の石室には一体の石仏が安置されている。この坂のつづら折れが竜の姿に似ているとか、昔、竜が現われ旅人を驚かせたとかいう伝説がある。さて、城戸町尾根より座敷の山域に有名な北山の名瀑が三つある。北から大森西町の牛滝、大森東町の霧谷の滝、そして細野、轟谷にある滝又ノ滝である。最も美しいのは北条八景の一つ滝又ノ滝で、寛政20年、天正年間、上界因果居士が隠棲したという伝説を残す滝である。城戸町で新緑のシャワーを浴びるもよし、多摩めぐりでさわやかな汗を流すもよし、八丁周辺で初夏の風に吹かれながら故郷へのロマンに浸るもよし、段々日が長くなります。新緑から初夏の一日、少し遠出をしてみよう。

(調査) 平成3年12月〜4年2月

伝説を秘めた心の故郷

廃村八丁と衣懸坂

京都北山



菅原町「バス停」の橋を渡り、村外れで二分する道を右へ上ると、谷に沿ってアスファルトの道は最良の民家の前まで続いている。ここからダンノ峠の鞍部が良く見える。

さらに林道を奥へと進む。杉林の中で沢を渡渉すると再び林道の分岐点に到る。直進する林道は行き止まりで、右側の林道を取ると谷を流す川に突き当たる。植林地で合流するが、このコースでは林道分岐の中間橋を登ることとする。取付点は右の林道へ数分の所から道標に従って左側の山腹へ登ってゆく。

最初は急坂であるが木の根茎のある付近からは傾斜も緩やかに減少し、ついにピンチを上げてゆけばよい。途中の足根にはシヤクナダの木が多く、4、5月の開花期は見事なものである。谷道と合流する付近からは若い杉林となる。シヤクナダの高度を上げ、ありとあらゆる菅原町の民家が小さく見える。鞍部が近づき、白い風化木が見え始める。鞍部に到る。

時には変わった樹種のツナナの木が一本あり、東側の展望は菅原の集落から桑谷山の尖峰、そして周辺の山々まで、北山第一級の展望地である。八丁への下りは時々の穏やかな菅原で流路になった平地帯のような道で、周囲の山々は低い丘陵状の丘を形成する。ナンヤノチ谷が左から合流すると、谷の中央にモ

ミの太木が目につく。背後の小屋は同志社大学の「新心荘」で環境汚染から温泉を守る為、八丁半からここへ移されたものと聞く。

この先で道は二分し、右は四郎五郎峠経由で八丁へ、コースは左の山腹へ登り、シヤクナダのある支路を乗り越して奈良谷へ下る。急坂で途中、木梯子があるが崩れている部分もある。注意して歩け。奈良谷の谷合は下ると右側から崩落谷が入る。その奥には羽部流が水垣の淵には時々なり、白糸のよう美しい滝である。流れを渡り、白糸の淵を下ると小滝があり、杉林の中、数箇所丸木橋を渡ってゆく。緩やかな流れには八丁人の歴史が刻まれ、今もなお当時のままで流れ続けているに違いない。この先で橋を渡ると丁字路になる。右は四郎五郎峠へ通じ、左を

取って杉林の中、石垣が見えくると八丁に到る。廃村八丁の有名な白壁の土蔵は、屋根と壁は全て崩れ落ち、骨組みだけの骸骨状態になってしまっている。土蔵に描かれた銀座通りや富士山、水戸黄門の絵は八丁人の悲哀と共に現世から消えてしまった。半世紀以上も閉ざされた土蔵もここに終止符を打とうと

している。又八丁に一つのロマンが生まれる。八丁放棄は、この土蔵前から始まる。土蔵の横には田舎形の山小屋があり、周囲の杉林の

中には家屋跡の石垣が残り、道脇には菅原跡がある。この先で橋を渡ると二体の石仏が石の淵に安置されている。次に見えるのが左谷沿いに京大農分子化学の三角小屋があり、その先で右側に朽ちた八丁八幡宮の鳥居を見る。八丁人の様々な折りは、この石段から始まり、笑いや悲しみの中で時代は流れていった。それは高層積の石垣に刻まれていることだろう。この先の杉林にはコンクリート製の物置と家屋跡の石垣が残り、八丁川に架かる旧学政橋を渡ると分教場跡に着く。二棟の木造小屋と一棟の土蔵が残っていたが土蔵は崩れ落ちていた。柱の広縁を横切り、50センチほど歩くと昔話した土蔵が並ぶ墓場がある。盆や彼岸には花や供物を持って八丁に居住していた人達が帰ってくるのである。この先で道は八丁川から離れ、ババ谷へ入る。一面の植



廃村八丁の土蔵 (昭和57年頃)

林帯で、杉林を抜けると緩やかな道はリョウブやミスナラの茂る原生林へと入ってゆく。最後の美しいならかなスロープを右へ廻り込むとムクの大樹のある平地帯に到る。時から至原登山(衣懸山)往復は30〜40分程度である。戻りは無いが樹木のみはババ谷流道と変わりないであろう。下りは整備された土が緩く、少しの間は踏木帯であるが杉林へ入ると一変して暗くなる。シヤクナダ道は急坂。急坂となって一気に展望が下まで下り、さらに谷沿いを少し下ると東谷林道に出会う。峠道の分岐点を示す杉の大木が立っている。

さて、左、衣懸坂方面へと向かう。きめかけの序で林道は厚く、少し行くと左から小谷が入る。この谷との中間橋を渡ると登っている。これは右側の本流に落ちるより右側の滝が連続するための高き道で、再び杉林の中で本流と合流する。この付近、杉が根元から向本も倒れられているので歩きづらい。やがて本流から離れ右側の杉林をシヤクナダに登り、尾根の南側を歩くと衣懸坂の峠に着く。菅原側は一面の杉林で展望も良く桑谷山の双三峠が正面に見える。山の斜面には台杉の老木が点在し、段々に差障らしいアクセントをつけている。衣懸坂の伝説といえは奈良

時代後期和銅6年、八丁山に八咫一身の巨鹿が出没し、人々をおびやかしたため、元明天皇の命をうけた香香三郎兼家が退治に向かった。その途中、この峠の木の下に蛇を脱いで逃げ、甲冑に着がえたところから名がつけられたという。しかし現在の時は杉林と雑木に分けるだけの被部で、伝説がなければ峠はヤブに消えていたに違いないだろう。

菅原への下りは急な刈り取った道の斜面をロープにつかまりながら下る。一面に杉の苗木が植林されているので注意しながら左へトラバースしてゆくと杉の大木のある地点からシヤクナダの急坂となって10分程でオリ谷と合流する。合流地点は杉林で、後は谷沿いの道を20分も歩けばオリ谷林道の終点に出る。林道を「菅原町」バス停まで歩いて30分くらいである。(元山裕久)

- ハコースタイム
- 菅原町バス停(1時間20分)ダンノ峠(30分)
- 同志社大学新心荘(15分)川部流(30分)廃村八丁(1時間)衣懸坂(30分)衣懸山へは往復40分(30分)東谷林道(1時間)衣懸坂峠(1時間)菅原町バス停
- 地形図 2万5千1:1 久多・上戸町(会交通)京都市出町柳駅より「広河原」行

エリア別徹底研究

花背・広河原・京北町周辺の山④

麿村八丁を抱く
爽やかな峰

品谷山

京都北山



麿村八丁を囲む山々は美しい原生林を持つ峰が多く、ブナやトチ、ミスナラ等の大木が茂り、その中に杉や松の大木も混じり合っていて美しい調和を見せている。京北町の奥山であるが険しくもなく比較的取り付き易い山なので麿村八丁を訪れた時には是非登って頂きたい山である。(麿村八丁までは⑤コース参照)

スモモ谷の入口は土蔵の裏側から対岸へ渡り、杉林に沿って踏み跡を進む。家庭跡の右垣が杉林の中に見える。杉林帯が途切れ、左へ支流を分けると本流は右へ大きく曲がり、この先で再び二分する。西方へ谷道は入っているが右の谷に入り、しばらく潮ると小岩の点在する小広い場所に出る。トチやカエデの新緑が大を覆い、溪谷の美しさは言うまでもない。この先で谷は二分するが、道は右の谷へ入っている。右の谷をツメてもゆめ谷山の鞍線に飛び出す。品谷峠を経由するなら左の谷へ入る。国土地理院発行の2万5千図に記載の「品谷峠」の位置は、品谷山寄り一級滝壺されているので注意して頂きたい。左の谷に入ると思えば開け伐採地が出る。再び積林帯の中で二分する谷の左を取って登ると品谷峠に着く。北方には花ノ木が見え、裏側の雑木林に「品谷」と刻まれた古い木札がある。西側の釜ヶ原へ下る道は時の北側のピークか

ら西へ下る支尾根に付いていたが現在は廣道化が進み、ほとんどわからない。

品谷山へは世の茂る疎林の尾根まで、最初のピークには後の大木がごまかす。この先からカエデ林を歩く。2番目のピークにも松の大木が並び、品谷山のピークを目前に北東へ50分登るとトチの大木のある鞍部(国土地理院記載の品谷峠)に着く。私車になるが、私自身ここが本当の品谷峠だと思えるが其の旨とはわからない。

従の茂る尾根道を20分も登れば品谷山山頂に着く。爽やかな疎林の山頂は静かで奥山らしく原生林に囲まれている。下山は登跡を往復すると時間がかかるので南の谷へ下る。三ノ角点から礫石の両方へ笹の急斜面を一気に下ると緩やかな流れが出合う。道はないが谷心を下ってゆくと、途中小滝が三箇所あるが右岸を巻けば良い。右岸の大木を過ぎると、左岸へ渡り杉林を抜けると四郎五郎谷に出合う。トチの大木が数本目につく。左を取って四郎五郎峠を経由し峠谷からダクノ峠を音原町へ下るコースが一般向きである。(北川裕久「ハコスタイム」麿村八丁(1)時間 本谷長探地(20分) 品谷峠(50分) 品谷山(50分) 四郎五郎谷山合)

△地形図② 2万5千—上宮前・中

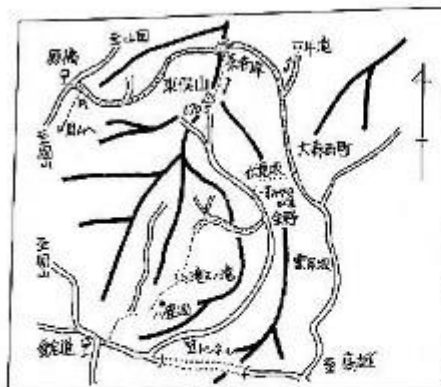
エリア別徹底研究

花背・広河原・京北町周辺の山⑤

北山の名瀑めぐりと

東俣山

京都北山



「愛宕道」を少し戻り、民家の間を道端に促って林道を進むと二分し、直進して右側へ橋を渡り、谷に沿って歩く。何度か谷を渡り返し、左の水流を進むと右側に織田信長の叔父、十津田重和の修験場、八雲洞がある。この先で道は左山腹へ登っているが、滝又ノ滝へは谷沿いを奥へ進む。落差20mほどの二段滝は、天正年間一界因果居士が隠棲した滝。少し深り、西谷を登ると階梯状の岩盤の上に出て、緩やかな道を歩くとすぐ林道の終点へ出る。左右に林道があるが何れも直進すると丁字路になる。余野坂を右に登ると峠で、そのまま余野へ下る。余野の集落を左に取って行くと右側に炭焼がまを見る。その先陣の木の分岐が伏見坂の入口で、緩やかな峠越えは30分程度で大森西町へ出てしまう。車道を左へ1.5kmで道は二分するが右を取って少し行くと谷が二股に分かれる。左の生流谷へ少し入ると牛滝がある。落差10mほどの円筒形に入ぐられた土留を落ちる直前でお椀のような滝壺が印象的だ。

若谷峠の分岐まで戻り、山国方面へ林道を登る。杉の疎林道を峠まで30分。峠には三方石垣に囲まれた祠に、高さ1m超ぐらいの地藏立像が安置され、「右山開けびみち、左下村しんざん」の古い道標がある。東俣山へは祠

横から南の尾根を登る。急坂で突起をひとつ越えたら松と松の境を登る。緩やかな道となり換算のピークに着く。ここから深木帯の尾根で松や樺の木が点在し、山頂に至る。3等三角点の止頂からは南方に雲岩山と手前に余野の集落が木の樹影に見ええる。茶臼峠から往復1時間くらいである。

さて、帰路は、左下村しんざん(の輪切谷)を下る。杉の疎林の中静かな林道で、1時間後で神社の橋を通って桂川を渡り「段橋」バス停に着く。周山まで30分程度なので橋を渡らず高野集落を抜けて「周山」バスターミナルに出るとバスの便が良い。(北川裕久「ハコスタイム」音原町バス停(1)時間 滝又ノ滝(10分) 余野(10分) 大森西町(30分) 牛滝(30分) 茶臼峠(往復1時間) 東俣山(30分) 段橋バス停(音原山)まではさらに30分 △地形図② 2万5千—周山・上宮前 △交通② JRバス音原駅前から「周山」行



エリア別徹底研究

花背・広河原・京北町周辺の山⑥

北山の庭園

城丹国境尾根と

京都北山

竜ヶ坂

ナベクロ峠への最速コースとして大森長谷を經由するルートを紹介しよう。「岩屋橋」より岩屋不動の横から六地藏の道が薬師峠を經由して、杉木立の中を大森東町へ下る。長谷出合までは林道で、途中、霧谷溪への道がある。この先の極度の急登が長谷出合で車前止めの門がある。丸木橋を渡り杉林を登る。20分程度先で左側が杉林へ降り、古い木馬道の残る谷沿いを巨岩・奇岩を見て上流へ向かう。伐採地を通り、右側へ渡って送電線の下で谷は二分し、左へ下って長谷急流へ入る。階段状に重なる大小の岩の谷を一気に高度を上げ、ツメてゆく。大岩の地点から杉林へ入ると左岸は巨岩を配した灌木帯の台地で日本庭園風な所である。この先の小屋の付近で道は消え

右側の尾根を北上すればナベクロ峠に繋ぐ。時から北へ少し登ると祖父谷峠からの尾根道と出合い、西へ少し下ると湯原の古い鉄橋下に繋ぐ。さらに下ると植林帯で開き湯原路を分岐するが、直進して左へ回り込むと杉林の裾野に繋ぐ。この先、ピークを二つ越えたと緩急路は北に向きを変える。このピークには岩があり北へ西向きに50分ほど下り、西へ再び曲がって左の尾根に乗る。この先の杉林の急斜面を下り、再びコースは急斜面を登ってピークに繋ぐ。さらに道は左側の四ノ谷へ下るように思うがカヤ原を通って休憩するには良い広い裾野に繋ぐ。

再び灌木の裾野を登る。モミヤツガの木が点在し、風化木のあるピークを過ぎると道も緩やかになり、前方に飯森山と反射板が見える。大谷峠まで一気に下り、さらにアセビの茂る急坂を登ると三河峠の飯森山に着く。樹木に囲まれた静かな山頂だ。下りも西南へ急斜面となりニガクナ峠のある時に繋ぐ。

再び急坂となって反射板のあるピークに着く。飯森山の尖峰が一際目を引く。反射板の北側から杉林へ下り、緩やかな登りから尾根の南側を登り、竹のスロープを過ぎると次のピークが天童山となる。松林の山頂で北西が開け針葉樹原の山並みが美しい。北西へ下る

茶 香 峠



道を作り直し、茶行峠へ向かう。松林をノドリ、カヤ原から背丈程の笹を分けると霧原のある松林のピークに繋ぐ。西南の松林の道を下り、湯原の急な急斜面を下ると茶行峠である。時には石垣に囲まれた祠に地藏立像が安置されている。石標に従い、右山頂を取る。

植林帯を波状に巻いて歩き、大岩の間を通り抜ける上灌木帯の緩やかなニリ道となり、途中、松林の中に井戸跡があり、その先の少



し開けた所が鳴の堂跡である。昔は立派な堂もあり寺街道の休息所であった。ここにあった安産の子安坊童は、山田口江の公天館に安置されている。現在、ここには石垣が残るだけで当時の様相はしのびがたい。この少し先が竜ヶ坂の峠で、峠には石室が現存し、高さ2m、幅5mの二室からなり、右室には釈迦仏、左室には地藏仏が安置されている。石室横には供養塔があり、これらの規模から見ても、立派な衛門で人の往来も多かったと思われる。さて竜ヶ坂を山頂へ下る事にしよう。(坂名の由来は飯森の頁を巻いて急坂のつづら折れを下ってゆくと山頂の葉落が展開する。田圃の整然とした美しさに春は朝葉生福の遺構だといわれている。

お。なおもつづら折れを下ると左側に墓地があり、墓池前から右の道を下ると民家の横を通って中江の車道に出る。大堰川の橋を渡るバス路までは一本道で、右へ曲がった小学校の前が「Rバス」山頂学校前である。
北川裕久

△コースタイム▽
岩屋橋バス停(1時間10分) 薬師時(20分) 大森東町(20分) 長谷出合(1時間20分) ナベクロ峠(2時間0分) 飯森山(50分) 天童山(30分) 茶香峠(1時間20分) 山頂学校前バス停

△地形図▽ 2万5千1用山・上吉前
△交通▽ 京都バス出町柳駅から「岩屋橋」行

飛驒の山(国境編)

酒井 昭市著 四六判・二八〇〇円

新刊 (3月上旬刊)
一阿蘇郡山周辺の山
北ア飛驒側冬季(笠ヶ岳六毛谷、白山と園辺の山、阿寺山系の山脈等)
「ヤブ山編」発売中。二五〇〇円

京都滋賀南部の山

内田 嘉弘著 四六判・二〇〇〇円

新刊 (4月中旬刊)
木津川、宇治川、野洲川に囲まれた剛米前後の山々は、古社寺も多く、歴史をたずねての静かな山旅が待っている。ガイド地図付。

ナカニシヤ出版

京都府左京区吉田二本松町2
電話 075-751-1065 〒606

京都北山

四 やぶ漕ぎ痛快山行記

廃村八丁に往時を偲び、スモモ谷源頭から品谷山へ

京都北山グループ

心配していた天気は快晴とまでいかないがまずまずのハイキング日和である。町内のTさんとマイカー同乗で我が家を8時に出発する。途中玄塚付近でTさんを拾って今日は参加者3名のこぢんまりとしたメンバーで北山へ向かう。

京貝峠から早朝の京都市街を眺望して北へと走る。杉板から周山街道(162号線)へ抜け、すがすがしい北山杉の映える中を気持ちよく快走し、2、3の峠を越え周山に入る。ここで162号から右折して山田・常照寺」を経て、井戸から左折して小堀川に沿った道を北上する。「泉智山の家」を左に見過す。3の佐渡谷を通過する。小堀安落の

三渡路から右に延びる東谷林道に入る。林道沿いには可愛いピンク色のタニウツギやガクヤマアジサイの初夏の花が今を盛りながら咲いている。山間のおいしい空気を吸いながら走っていると、馴れた山ながら本日の廃村八丁への山行がいやがうえにも盛り上がり、かすかな興奮を覚える。真都を完つておよそ1時間余りで東谷の奥、卒塔婆峠への登り口に到着し、林道脇に駐車して登山準備にかかる。Tさんの足元に地下足袋だ。今日の山行には適当な装備といえる。

東谷のキンマ橋を渡って腹根に向けて急登の途中、大杉が数本根こそぎに谷に向かって倒れている。腹根筋を迂回して急登に取り

付く。3人の呼吸はビツクリだ。マイペースで登る。やがて植林帯から抜けて灌木・雑樹林帯へと山の姿が変化してくる。後ろを振り返ると城丹国尾根の飯森山、天童山がくっきりと見える。この卒塔婆峠への道はうまくと出ている。高巻きとジグザグが遠征にミックスしており私達を疲れさせない。昔の人が経験と感で造ったのだろう。やがて前方が開け、明るくなってからおよそ3000以上の高尾を登り詰ると卒塔婆峠に到着した。

しばらく峠に腰を据えていると初夏の冷風が肌を快く爽やかに伝わり最高の感觸を味わう。此処から廃村八丁へは緩い下りなのでのんびりと歩く。いくつかの安全なキンマ橋を渡り溪流に沿って行く。やがていくつもの支流の水が本流に合流し、淵となり瀬となり水音が響いてくる。灌んだ橋に水を注ぐと大きなアマゴが寄集った大きな岩の淵をゆうゆうと泳いでいる。三天の杉・檜植林帯を通り越して、昨年夏の例会で溯行した八丁川の合流点に出る。以前この合流点には立派な仕事小屋が残っていたのだが、今では完全に崩壊して、形もなく腐材と化している。かつての八丁集落の歴史の面影の一環として、先祖伝来の墓標が20、30台座しているのを右に見て、いよいよ廃村八丁に入ってきた。



品谷山から若丹尾根を展望する

此処の広場には京都市京北町の頑丈な植林管理小屋が2棟建っている。丹波川に架かる出来たての橋を渡り、右方向へと進む。この周辺は往年の八丁集落の中心地で、かつては人々の往来も賑やかであったと想像する。現在では植林帯となっているが、道の左右には屋敷跡の立派な石垣が至るところに若生えて往年の歴史を物語っている。世帯跡を過ぎ、しばらく行くと左手にかつて村の鎮守さんが

あつたらしく、石段下にはその姿を辛うじて留めている鳥居を見る。先の小広場にはトクンで造られた「木」の山小屋が2、3棟建っている。荒涼川に架かる橋は相当朽ちて安心して渡れないのま下に回って石飛びで渡渉して、廃村八丁の象徴である白壁は崩壊して、残念なことでは白壁は崩壊して、残っているのは土版を支えてきた数本の柱だけになっている。長年の野ざらしの結末とはいえず、見るに堪えない哀れな無残な姿である。土蔵風の刑部川畔でリュックを降ろして小休止する。以前はスモモ谷へ入る橋が刑部寄りに架かっていた記憶があるので、迂回してその橋を探すが確失していて仕方なく渡渉して今日のメイン、スモモ谷に向かう。入口から稍上り差流して最上入の入った形跡はない。幸い私は2回この地を踏んでいるので記憶を引っ張り出して、かすかに残る踏み跡をたどって前進する。奥に進入するに従って同等の谷が左右から入り込んで来るが、出来るだけ深い、明るい谷を選定して進む。左右に渡るキンマ橋も完全に朽ち果てて皆無の状況だ。古の付着した大小の岩肌を滑らぬよう、慎重に渡渉を繰り返して高尾を上げる。周畔が植林帯から徐々に灌木・雑樹林帯に変わってくる。傾斜がゆるやかに一変して、幅が大きく

広がり、左右の山肌の橋々の新緑が深緑に変化して、中を流れるスモモ谷も壮大な岩がムクムクと群を形成している。あちらこちらに大小の滝になって、まさに天然美、自然の日本庭園を演出して、初夏を謳歌、満喫させてくれる。北山には似合わない素晴らしいスケールの溪谷だ。途中右岸、左岸の谷の入口に赤いテープを巻いた橋々を見つけたら、何のテープか探すがつかず、一様、マークを見過してスモモ谷の奥へと二歩一歩づつ進む。日本庭園を過ぎると一帯に峡谷となつて、足場も悪くなり滑りやすいため岩を乗り越え、時には高巻いて慎重に進む。小さな

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。

〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5768
FAX (075) 231-0318

山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

あめのかぐやま
天の香具山に夏来るらし

松永 恵一

春すきて

天皇御製歌

春すきて 夏来るらし

白妙の衣はしたり

天の香具山

〔万葉集〕巻一、28 持統天皇

標あざやかに横たわる天の香具山(152)のあたりに白い衣がほされて、天皇はいつの間にか夏が来たのだと驚かされている。

天香具山に一つの伝説がある。「伊予國風土記」に伊予の郡、郡家より東北のかたに天山あり。天山と名づくる由は、倭に天加長山あり。天より天降りし時、二つに分れて、片端は倭の國に天降り、片端は此の土に天降りき。因りて天山と謂ふ。本なりと記され、天から降ってきた山なるがゆえに、神聖な山

として崇められ、「天」を冠して「天の香具山」とよばれた。神事にはこの山の土で祭樂がつくられ、標が祭場にするられ、山の庭の骨を焼いて土が行われた。山頂からははるか遠く、盆地を幾重にもかこむ山々が見え、それらの山にいだかれた平地には、人々がけんめいに働いている。

天皇、香具山に登り望望したまひし時

御製歌

大和には 群山あれど

とりよるふ 天の香具山

登り立ち 國見すれば

海原は 立ち立ち立つ

うまし國ぞ あきづ島 大和の國は

〔万葉集〕巻一、2 舒明天皇

大和には山がたくさんあるけれど、なんといつても天の香具山だと天皇は山を讃え、祭事をする儀、水鳥の飛翔をうたい、大和の繁栄を祈ったのであつた。

「國」すなわち國見というのは、天皇となられた時の最初になされる神聖な行事であつた。仁徳天皇が皇のかまどのにぎわいを喜んでだという物語の伝統の上に立つたものだ。悠久のときを感え、万葉びとが語りかける。



鎮の辻付近から見た天香具山

大和天山

中大兄二山の歌

香具山は 戦勝を愛しと

耳成と 相争ひき

神代より かくにあららし

いにしへも しかにあれこそ

うつせみも 妻を 争ふらしき

〔万葉集〕巻一、13 中大兄天皇

百濟救援のため征伐軍の船団は瀬戸内海を西へ移動した。その船隊での歌。瀬戸内海南國原(宝篋印堂五川市から明石)を渡るころ、中大兄天皇(のちの天智天皇)がうたった。ふたりの男の相争い、ひとり女の神を争った三山伝説の三角関係のことを、さうりとうたひ流している。船上は祭樂のまつまかり。身におぼえのあもものもいたたろう。船のうえのにぎやかなさまめきが開こえるよつた。そのなかに、ロマンスを残す額田王と大海人皇子の声もあつた。

広々とした奈良盆地の南部に戦勝・耳成・香具山の大和天山がはっきりと浮かぶ。香具山と戦勝山が東西の二直線に結ばれ、耳成山が北の頂点となる。この三角形の山の位置は、もともと神秘的な聖地かたちにながらぬ。

戦勝山(1500・200)は、神武天皇が即位したとの伝説を持つ地。瀬戸内海と神武天皇

皇陵がある。湖文鏡衛の大造師があり、比較的はやい時期に文化のひらけた所だつた。

耳成山(139・7)は、三山のなかではもっとも平坦地であり、藤原宮の真北にあたり、その延長線上に平城京がある。

宮文と天香具山

本居宣長は、明和9年(1772)の書、

吉野の櫻見物をかてて、友人や門弟をさそひ、

大和飛鳥の地を旅した。「宮廷日記」に、

「いつしかと、思ひかけしも、久かたの、天

のかぐ山、けふぞわける、みな人も同じ心

にいそぎのほる。「中略」山はすべてわか木の

しもとはらにて、年ふりたる木などは、をさ

く見えす。茶はうちはれて、つゆきはる所

もなへ、いづかたも、いとよくみわたさ

る。中に、「中略」もしきの、大宮人のあそ

びけむ、かぐ山見れば、いにしへおもほゆ」

「中略」西のかたにうねび山物にもつ、

かす、一はなれて、ちかう見ゆ。こゝより、

里ありといへど、さばかりもへだちらじとぞ

思ふ。なほ西に金剛山、いとたかくはるか

に見ゆ。その北にならびて、同じなる山の、

いさゝかひき、をなん、葛城山と今はいふな

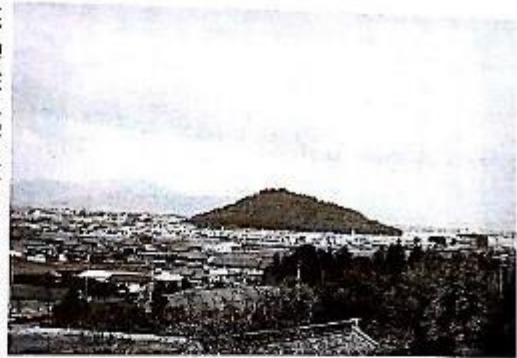
れど、いにしへはこのふたつながら葛城山に

て有けんぞ、金剛山と、きたて、後をこ

けつらん。「中略」又その北にややへだちりて、二がみ山、峯ふたつならびて見ゆ。これも今は、南じやうがだけと、例の文字のこゝにいひなせるこそにくけれ。伊弉山もあはかくさす、いぬるの方にかすかに見えたるに、吉野の山のみぞ、ちかきにさへられて、こゝよりは見えぬ。さては東も南も、此國の山々のこゝろなく見せられたり。又くになかは、疊を敷きながらべたらんやうにならびて、その里かの森などむらむらわかれて見えたる北のかたは、ことにはるかくと、末は遠にまがひて、めも及ばず、山のほを見えぬに、耳成山のみぞ、南北といはんには、北によりて、物うちおきたらんやうに、たゞひとつ、これは、うねび山よりも今すこしちかく見えたる。

南院より登り山頂の神社の前に膝を下して「かたひひ(兼辨用食部)などくひつ、よもの山々里々」の風景をたのしんで北麓へ臨んだことが記されていて、万葉集や古事記の主要な舞台となる大和の地味に深い関心を抱いていたことがよくわかる。今日では樹木がよく茂っていて、巨門見の程度の眺望しかないが、先年松の木が松食い虫にやられて、伐採されるまでは、いまよりいそよようつそうとして遊覧かつた。

『南院物語』の作者として知られる上田秋成



天香山から耳成山を見る

飛鳥が降りて、歩くことが多いが、今回は、飛鳥でも北方に位置する本薬師寺の礎石群を見、大官大守のあとを尋ね、天香山に登り、藤原宮跡をへて、耳成山まで足をのばす。持統天皇を育て、彼女が日々眺めていた自然を通る。彼女の駆け抜けた足跡を歩き、彼女に思いを馳せ、巡ってみる。それは歴史のロマンを共有する旅になる。

近鉄阪御橋駅で下車。駅前時を東へ、国道165号線を横切り、500mほど行ったところから、東西両塔跡と金堂跡の礎石群などが異々と残っている。礎石の大きさと、その繁然と並んだ姿に驚かすにはいられない。この寺は養老2年(718)平城京に移された。奈良市西の京にある法相宗大本山薬師寺がそれで、以後ここは本薬師寺とよばれる。ここからの眺めの山がめも格別である。

本薬師寺からさらに東へ進み、飛鳥川を渡り、左折すると藤原宮跡に入る。ここは右折して飛鳥町、上藤原町を過ぎ、公園になっている飛鳥跡を見る。さらに東に行く道はやがて八釣街道を横切る。道しるべがたまたま、西側に「右たよのみねよしの、すくかや山あべもんじゅ」とある。直進し南浦の東路に入る。軒下に「阿蘇能巡血湯」の古い看板を掲

げた商家がある。ちよっぴり壊れかかっているが、もともとは薬方医の家で、のちに藤原を営んでいたと聞いた。この無数の東の路地を北に向かい、小路をつめていくと、香山への登山道がある。登り口に伊弉諾天皇を祀る小祠が蹲踞し木立の下に鎮まっている。山頂の広場には開元立神社が鎮座する。俗に雨の竜王とも呼ばれる。下山道は二つある。北麓の天香山神社に出る道と、西麓の「天皇登香山」聖蹟の「神御遺蹟」の石室跡のたつてゐるところに出る道がある。西麓へ降りる道をとる。急坂を下れば、ほどなく玻璃のたつてゐる地だ。ここからの眺望はすばらしい。さきに紹介した奈良の世界にひたってほしい。西麓の風景のすばらしい道を散策しよう。優しい風が流れ「あれこんな風景、みたことある」と憶ってしまうような懐かしい光景がある。天香山神社。『日本書紀』の「神代即位前記」に「天香山の社の中の土を取りて……」と登場する由緒ある社である。

天香山の南麓、西浦の集落の南方に大官大寺跡がある。この寺も平城京に移された大官寺となった。明治22年福原神社皇宮のために寺跡から礎石が掘られ、備かに塔跡と金堂跡の土壇を残すのみとなった。なおこの寺の塔は『日本書紀』等の記載により、九雲の塔で

コース概観

飛鳥を歩くというと、ふつう近鉄吉野線の

あつたと考えられている。

天香山神社の北に小さな池がある。その北西の横山に「天香山遺安巨承地」の碑が立つ。北方に隣接して八釣地蔵。この地蔵菩薩は物部守屋が禱寺を築いた時、火を逃れて天香山の頂上に移っていた。そこで聖徳太子がこの地に寺を建てたという伝承がある。

八釣街道を西に横切ると高阪町。藤原宮跡はすぐそこだ。持統天皇の8年(694)に飛鳥藤原宮から移され、和銅3年(710)



平城京に移るまでの、三代16年間の都のあったところである。北は耳成山の南を東西に横断する横大路。東は天香山を通る中つ道、西は秋傍山の東麓を走る下つ道。大和三山のほが中央の空間を利用した、唐の長安城をまねた巨大な都であった。

藤原の大官仕へ、生れつぐや
姫女がともは、羨しきるかも

藤原宮に使えるおとめへの羨望をうたうことによって、藤原宮を羨め歌えた歌である。

天香山の西麓に藤原宮跡の遺跡がある。飛鳥藤原宮跡掘削調査資料室で、今まで一般公開されていなかった研究成果を身近に見学できる。藤原宮では、どんな生活があったのだろう。そんな興味にスバリ答えてくれる。なかでも色彩豊かな女官や役人の衣服・食事の模型・瓦や土器などはぜひ見てもらいたい。いまは静かなたたずまいをみせる藤原宮跡に立つと、大陸からの遠来の客で賑わった、千代代の姿が浮かんでくる。藤原宮は、当時の最先端情報発信基地だった。朱と緑と金網という極彩色の建物、金色に輝く仏像、そして都大路は、人々の足跡を抜き、大陸文化への憧れをかきたてた。

藤原宮から北へ1R桜井線、国道165号

線、横大路下代大和の東西道路、近鉄大坂線を越える。耳成山は田原の中に美しい独立の山容をみせ、ひとときよく見立つ。「大和名所図会」は「四面田野にして孤峰森然たり」と記した。南からの登り口は八木坂とよばれる。耳成山神社の参道になっている。山の中腹に鎮座する神社の祭神は大山祇神・高皇産靈神。井殿の左の小池を登ると山頂はすぐ。西へ下山しよう。この道は木原坂という。登り口に残る井戸に弘法大師の伝承を伝える。耳成山を背にして二上口を正面に見ながら八木坂に向かって一日の旅を終えよう。

コースタイム

- 近鉄阪御橋駅 (10分) 本薬師寺 (30分)
- 大官大寺跡 (20分) 天香山 (30分) 藤原宮跡 (30分) 耳成山 (30分) 近鉄八木駅 (費用) 近鉄上本町駅、阪御橋駅

近鉄上本町駅、八木駅 480円
大官大寺跡 (20分) 桜井・阪御橋山 (地形図) 2万5千、桜井・阪御橋山 (問い合わせ先)

飛鳥藤原宮跡掘削調査資料室 07442 (土) 1122
入館無料9時~16時30分(土曜は12時まで)
日曜・祝日と第2・第4土曜休館

関西周辺

初夏の山

特選 コースガイド

① 庚申山

② 取立山

③ 宮指路岳

④ 神野山



初夏の山

いつの間にか岩壁が深まり、新緑の初夏がやって来る。ひと雨ごとに葉が濃くなり、薫風がさわやかに吹き抜ける。

日差しが強まって、北アルプスや南アルプスなど、冒険者も急ぎ足。ほとんどの山小屋が1月下旬までに閉まり、連休は登山者がどっと降り出す。連休が終わると人出も絶え、夏山までのしばらく、静かな山歩きを楽しむ

ことができる。本書の夏山探検に備え、徐々に足を馴らしておこう。

関西では大峰山が5月3日に開山する。近郊の低山歩きから行動範囲も広がって、白河比良、鈴屋などやや高い山へも行ってみたいくなる。

道端に咲いている野の花に加え、木々の花も咲き始め、ヤマツツジ、鈴鹿ではシロヤシオ。渓流沿いにはクニツツジやヤマアザミサイが咲く。岩場の山ならシヤクナゲが咲いている。大峰のオオヤマレンゲは6月下旬頃から開花する。これら初夏に咲く花を眺める山歩きも面白い。

暑くなったら、テントを担いで週末のアウトドア・ライフを楽しんでみよう。テント場から立ちのぼる煙は初夏の山によく似合う。キャンプを楽しむ人たちの歓声がこちらから聞こえてくる。夜はたき火を囲み、ランブの下でくみかわすお酒の味は格別だ。いつまでも山の話をしたい。

新緑の森の中を歩いていると気分がとてもよくなる。これはフィトンチッドの恩恵だ。おいしい山の空気が口頃のストレスを軽減させてくれる。自律神経に作用し、精神を安定させてくれるからである。まさに森林浴は初夏ハイキングの佳境である。

たのしい山歩き

尾瀬雑考④

「初夏を彩る、尾瀬の花々」

松下 満

「この土質みたいなものは何ですか」と問われることが多い。尾瀬橋から赤田代分岐点の木道沿いにかまランが黄色の花でハイカーを待っている。

水芭蕉の開花期、湿原に差した枯枝のように見えるヤチヤチヤギ（ヤマモミ科の常木）もすっかり芽吹き見栄えのしない花をつける。シヨウジョウバカマもいたるところで見ることが出来る。この花は土地の酸度の強弱により白・ピンクからエンジと千差万別で雄々の顔の色に似ているのでこの名がついたという。湿原の湧水林、湿原の中を流れる川沿いに発達した林、至仏山・盛ヶ岳頂上より尾瀬ヶ原を俯瞰すると骨状に乾いた親水林がよく判る。にはズミ（バラ科の植物で正確にはウワズミザクラ）が白い花をほころばせている。番はピンクマツバに美しい。

尾瀬川の北岸コース、沼尻近くの沼の上ではミツガシラの花が一面に咲きハイカーが欲声をあげる。南岸コース、白砂湿原の橋脚ではヒメイチゲ・アズマイチゲ（共に白亜・キクザキイチリンソウ（紫色）が可憐な姿を見せる。

大江山、尾瀬ヶ原西端にオレンジ色の大輪の花が咲き誇っている。群馬県の黒花にもなっているレンゲツツジである。奈良公園で

よく見られる黒輪は隈も除けて通るほど吸べないが、このレンゲツツジは牛にとっては養神が絶対に吸べない。群馬県内には国の天然記念物に指定されている。この花の母生地武蔵野原・湯の島遺跡がある。初夏より牛が放牧されるがまぎって肥料の恩恵を受けている。害はなく、かまぎって肥料の恩恵を受けている。

地帯より山の奥、地帯峠・小至仏、尾瀬ヶ原・尾瀬湖コースではエキザサ・マイヅルソウが樹間に白い小花をつけ秋にルビー色・赤色の実をつける。またどのコースを進ってもスミレの花を多く見かける。スミレは多種にわたるがオオバクナツボスミレ・オオバキスミレ・キバナコマノツメが有名である。

白砂峠付近では目立たないがイワナシの花（白に近いピンク）が注ぎ深い人に見られる。湿原の養神池水にウラボシウワラクがある。この時期ピンク色の釣鐘状の花を幾々とした風情でついている。

いずれアヤマカカキツバタ、というが花は見くらべれば違うことが判る。良く覚えて見分けて欲しい。山の奥から原へ歩いてすぐ左側に群落がある。また木道沿いでも見られるアヤマ・カキツバタ・ヒオウギアヤマと区別しながら歩くのもハイキングの楽しみである。

誰でも登れる十二支の山

こうしんやま

庚申山

湖南

初級コース(★)
慶佐次 盛一

湖南庚申山の末梢の峰に、目立たないが、2つの山がある。地形図では地名が庚申山の名がある。山には庚申寺が在り、金剛童子山、金成山とも呼ばれている。庚申山の庚申とは十二支における庚申のこと、一昔前までは守庚申とか、庚申待といわれる民間信仰があった。私達がハイキングの勝場でも目にする庚申塚などがその名残りで、道標などにもその類だといふ。さて、今の私達には馴染のない庚申の信仰とはどのようなものだったのだろうか？これは中国の民間道教が我が国に伝わったものらしく、道教では人間の体内には三尸の虫がいるとされ、庚申の夜に人が眠っている間に三尸の虫が人の罪過を天帝に報告し、天帝の罪

過の裁定いかんによって人の健康や寿命を左右されると信じられていた。

三尸の虫に自分の罪過を天帝に報告されたくなければ庚申の夜に寝なければよい訳で、庚申の日には夜を徹して呪文をとなえ、健康と長寿を願った。これが庚申信仰のあらましで、江戸時代の江戸のちまたで大流行したそうだが、元祖は大坂天王寺の庚申堂で、庚申信仰は民間だけでなく、平安時代には庚申遊びと称されて貴賤な人々の間でも盛んに行なわれていたらしい。

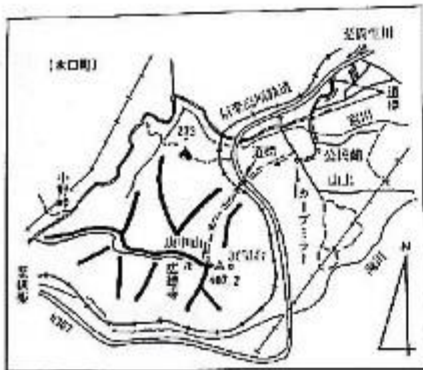
伝道の庚申堂には信願金剛童子、神道の庚申社には庚申夜命が祀られていて、庚申信仰は仏道なのか神道なのか戸惑うが、昔は神仏は一体という考えがあった。庚申信仰は中国からの道教と我が国古来の宗教が習合して、その正体はなかなか理解しにくい。昔から庚申さんのお使い、見ざる、聞かざる、言わざるの三猿でも名高いから、庚申山は今年のエトである中年の山にはまわしい山であらう。

丁良江津津生山望下草、駅前の道を国道307号に向かうと、道標脇に飯道山と並んで庚申山登山口への道標があった。登山口まで2.5kmとある。回道を左へ進む、袖川に架かる北側橋まで来ると、右手に飯道山が大きな

山上からの庚申山



く回を築り、その尾根の左の末梢に飯道山が可愛らしく盛り上がりつつある。橋を渡ったら回道を降り、左の旧街道に入ろう。古い旅館や杉玉が祀られた通り酒屋もあり、街角の一角には左飯道寺、左山上庚申と刻まれた古い昔の石柱もたつていて、町並みを抜けると国道307号の交差点だが、ここに三猿の像が刻まれた大きな庚申塚がたつていて、響くは車の騒音を遮断して回道を歩き、信濃高原鉄道のガードを潜つたら



牛飼の村へ入ろう。村の入り口に大口貫命を祀る総持神社が鎮まるが、日本最初の交通の神様と崇められ、ビール会社の信仰も抱いて、静かな牛飼の村を過ぐるとまた同じ国道に出でうんざりするが、数分の辛抱で左の道標から山上の村に入る。庚申山は目の前で、ここにも大きな庚申塚がたつていて、古びた公民館の前を過ぐると、カーブミラーのある三叉路となり右に折れて次の道を左折する。灯籠や庚申山への道標も立つ緩い坂道だが、登り切るるとまた同じ国道に出くわす。しかしこ

こは橋筋だけだ。

国道を渡ると「正庚申の森」の大きな看板がある登山口で、三上、田上、信濃県立自然公園の一角となる。道標に従って信濃高原鉄道沿いの路傍橋を渡ると落ち葉をちりばめた庚申堂への表参道で、整備されたハイキングコースにもなっている。石段と丸太階段が交互に続く参道には御堂と在り、アジサイの道、蒸籠の道、ツバキの道などの札がたつ道を登る。汗かく頃には山頂の標標に届くころ。

標標の麓にも三猿の像が刻まれ、三猿点は目立たないが標標と御堂の間の端にも三猿点が埋まっている。御堂の裏にはベンチや遊歩道も備えられた展望台がある。眼下にのどかな田舎の田舎を見下ろし、すぐ側に飯道山、正面には鈴鹿の山並みが延々と連なり、なかでも両笠岳や御在所、鎌ヶ岳がいい。

御堂を歩くと庚申堂へ行こう。広徳寺庚申堂の御堂は信濃大御所密というから古い。延元の御で眠んだそうだが、山登の秘本、左衛門という人が首領金剛童子の御堂で、真綿の製法を会得。その報恩のために再興したのが今の本堂だといふ。以来我が国の真綿の祖社、会金の祖社として全国の金剛堂からは御堂を集めている。広徳寺本堂の庚申堂は信濃が壊れ、かつての神仏混淆を残している。

付近には帝王への遊参道もあり、虫塚の小倉作戦から飯道の話も伺えたら有意義な山行となる。下山は元の道を戻るか、山頂の車道を下って庚申川へ戻る。

ハコースタイル
庚申川駅(1時間)登山口(25分)庚申山(1時間)分
庚申川駅
金原 甲 大坂 庚申川駅 3180円
地形図 2万5千:1水口

茶 通信販売

くつろぎとやすらぎのティタイムには
やっぱりお茶が ティバックが便利です。
山へお持ちください。ご家庭でもどうぞ。

1. 煎茶	3g	全品1箱単位(真空包装)	これでも100円入
2. ほろし茶	3g	100P 2500円	2500円
3. 玄米茶	4g	100P 5000円	5000円
4. ワロン茶	4g	100P 2500円	2500円

●商品は1週間以内に到着いたします。
●代金は郵便振替(振替用紙)でお願いいたします。
●送料はお客様がご負担ください。

茶 専門店 **のびのび**

〒201-8501 東京都千代田区千代田 1-1-1 TEL: 03-5561-0100
FAX: 03-5561-0101

特選コースガイド②

水ばししょうの花咲く

とりつたてやま

取立山

加越国境

中級コース(★)

濱田啓司

取立山(1387・200)は水ばししょうの南限の群生地である。暮下後の水ばししょうが咲く様子は圧巻だ。谷トンネル南側から取立山を通って取立平に至るルートが一般的で、東側に白山を望み、正に加越国境の展望台である。ここは石川貝谷峠対し福井県勝山市との境界でもある。この展望はコブシの木が多く、一度水ばししょうの時期に白い花を付ける。

水ばししょうの盛りは、雪の少ない年は5月10日過ぎ、雪の多い年はそれより1週間位遅れる。この頃にはシヨウジョウバカマやイワウチワの花の群生も見られる。

「日取り」水ばししょうを見に行こうと前夜庄の張り出した5月中旬の土曜日、早朝に家

を出てマイカーで福井に向かった。

大阪から約3時間、福井北インターで北陸自動車道を出て41.6分経て勝山に向かう。九頭竜川沿いの道を行くと、遠くに雪の白山が見えて来た。勝山で左折して15.7分経て谷トンネル方面に向かうと、道は徐々に登りになった。五所が原を過ぎ谷トンネル入口(南側)の空き地に駐車した。早速登山準備をして出発した。

舗装と地道の滑りした林道を登ってトンネルの上に出た。途中車止めの鎖があった。登るにつれて林道の端の鎖が頻りに見え出した。快晴で早く汗が吹き出して来た。鎖が近づいて谷峠に出た。五所が原から登って来た道がここで合流している。汗をふいて休憩をした。

林道と別れて山道に入る。緩急登降まで続くこの林道を行くと頂だが、面白味が無いので登山者は歩かぬ。だから登りの山道が続く。雑木の中にコブシの白い花が消滅した。これから向かう取立山と、こつた山が見えている。

取立山頂上への少し前まで登ると東側が開けた。雪を被った白山が目に入り込んで来た。素晴らしい眺めにしばらく我を忘れる。右横断しきの山道はやがて平坦になった。右

た、汗かいて登山のことぶり山頂上に出た。白山がどっかりと姿を見せている。大展望をほいほいしながらの軽食だ。すぐくには取立平が広がり、水ばししょうを眺望する登山者の声が微かに聞こえていた。

昼食後すぐ取立平に下った。取立平は中央が沼のようになっており、三方を流す川に囲まれ、そこに解けの小山が走り、中の湿地に水ばししょうの白い花が無数に咲いていた。素晴らしい眺めにしばらく感動した。周囲の森の巨木にイワウチワやシヨウジョウバカマの花が咲き乱れ、取立平はまさにユートピアだった。

沼をひとめぐりして、雪溪の上で写真を撮る。下山する人のワゴンに乗せてもらい、東山

つた、雪解けの水を飲んでみた。さらさら細く冷たいおいし味だった。

膝動に急がせられて出発。取立平の遊歩小徑を左に見て、取立山の山腹を登くように登り頂上に出た。取立山からは再び雪をいたたいた白山が見えた。流れを借しみながと山、「東山いこの森」への道は、頂上を越えて西に突き出した尾根を下り、更に山腹を逆登として下る。快晴で夕日が目に染み込んだ。汗だくで右こる道を懸命に下り、林道の終点に着いた。このすぐ下には大きな展望が出来て駐車が可能だ。

この森を通って私達が駐車している谷トンネルの入口まで送ってもらった。歩けば谷トンネルまでは40分以上はかかるだろう。

白銀に輝く白山を眺めながら素晴らしい花の山を歩く。……水ばししょうやコブシの白い花、シヨウジョウバカマやイワウチワのピンクの可憐な花が心に残る山形だった。

(平成3年5月18日歩行)
取立平へは谷トンネル南側か



取立平の水ばししょう



下に林道が見え隠れして続いている。左に白山を眺めながら、残雪を踏んでコブシの花の中を歩く楽しさはこたえられない。

取立山頂上には11.52・4分の三角点の標石がある。此処から尾根は少し下りになり緩急登降に出た。小さな石の道があり、お地蔵さんが祭ってある。

ここからまた登りになった。残雪も多くなって水が流れている。コブシの花も多くなっ

ら登り約3時間、下り約3時間だ。東山いこの森の少し上の駐車場から登ると取立山頂までは直登の急坂で面白くないが、時間はかかる。

列車でも日取りは可能だ。早朝の時点で大阪から福井に出て乗り換え、京福線越前駅で勝山に至る。勝山からのバスはないのでタクシーを利用する。谷トンネル又は東山いこの森までは約40分程度だ。帰りのタクシーの予約も忘れずに。東山いこの森にはパンガロイやキャンションもあり、電話もあるのが車も呼べる。

谷トンネルを石川川側に越えたと口蔵温泉があり、宿泊施設や旅館・民宿も多く、楽しい旅が出来る。

問い合わせ 東山いこの森

TEL 0779(80)1347

ハコースタイム

谷トンネル(5分) 谷峠(7時間) 取立山(10分) 取立平(50分) こつた山(10分) 取立平(15分) 取立山(5分) 林道終点(10分) 東山いこの森(40分) 谷トンネル(5分) 2万3千7百7十分

おぎす 小岐須溪谷から

くしろ だけ 宮指路岳

鈴鹿

中級コース(★★) 小山 ひろし

標高946mの宮指路岳。なんとも癒さのいい癒し合せであるが、いつ頃の誰の命を右なのかは知らない。三重と滋賀との国境交差点の小ピークで、仙ヶ岳と水沢岳との間に位置している。登山口は小岐須溪谷。

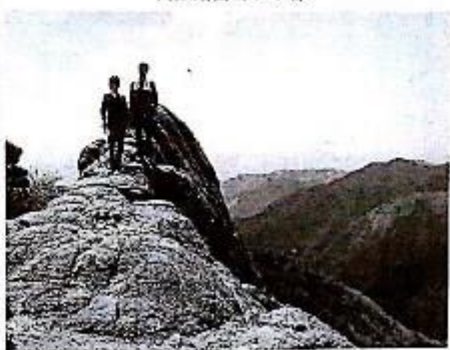
5月5日、子供の日。天気は絶好。今日の相棒は子供に振られたKさん。彼女の軽自動車に便乗してバス停「小岐須」を出発。集落を抜け左下の御幣川に沿って、や、狭い舗装林道を行く。1.8kmで、深山の家に着く。有料駐車場があるが、できるだけ遠いところということでも更に奥まで車を進める。宮指路岳への登山口は更に1.7km。先の大石橋を渡って間もなくの右手。一人がやっと通れるほどの狭い入り口だ。そのすぐ手前が切り通し

になって目下工事中の新林道の出発点となっている。登山口をひとまずやり過し1000mほど行くと左手に広場があり駐車可能である。

「最後道」ここは「うっしよの泪かきそと後妻」という句碑が建てられた。昭和61年6月にこの地で遭難した森田公隆医師の父「二」森田公寛氏によるものだ。あの時私も遭難隊の一人に加わっていたが、今この碑の前を立つと、当時の無念さが改めてこみ上げてくる。

小岐須のバス停からここまで3.7km。車で15分だが歩けば道草分もいれて1時間半というところか。登山靴に履きかえ、いざ出発10時35分だ。右下に新林道を見ながら杉木立の中を進み小堀場を通過。2.3km分ったところで大木橋のかかった八谷を渡る。ヤケギ谷である。少しさびついた登りを10分ほど詰めると、道は右。小岐須峠と、直進東海屋峠とに二分する。小岐須峠峠は降りに残し、直進のヤケギ谷道を行く。ほどなく左手に10分ほどの滝をみる。道はやがて滝の落口に接し、右手に炭焼き窯跡をみる。「宮指路」ヤケギ谷「鹿鳴谷」の真新しい標識がある。この道、随所に標識があり案内も多い。小さな枝谷をいくつか降き、意外に強いKさんの足元を自分で追いつながら杉木立の中の

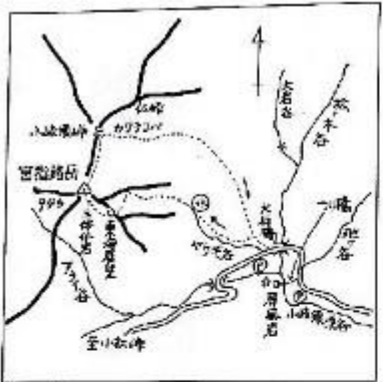
宮指路岳馬のり岩



急登に汗を流す。杉が雑木に変わるあたりで、密かに加害していたマムリスワをみる、わずれな草そっくりのきれいな花。それほど群生はしていないが、この時季に宮指路岳に来ると必ず出会うのだ。

11時30分。ヤツツバキの距る小広場に着く。右手奥に湧水がたたたり落ちている。登山口からちょうど1時間というところでコーヒータイトムとする。10分休んで出発。頂上まであと、時間くらいださう。ほどなくヤケギ谷の源流を降き、やや急なガレ場にとりつく。

左手の斜面を徐々に訪めて小さな尾根を進むと、「公山」と記された石杭のある小ピークに出る。ドウダンツツジ、シロヤシナ等が群生しているが花にはまだ早い。雨を兵、鎌ヶ岳入道ヶ岳、野登山、仙ヶ岳と、360度の展望が素晴らしい。ほどなく左手に東海屋峠分岐。ここからは日と鼻の先だから、ぜひとも見ておきたいところだ。小ぢんまりとした石橋は、少しだけアルペン的なムードに浸らせてくれる。南東に落ち込んでいくアライ谷と仙ヶ岳に続く西麓の対比は圧巻である。分岐点として戻し、半分進むと二つ目のピークに出る。イフカガミがみられるが、つぼみは



まだ壁の左に柱状の三分の三の岩をみる。一階宮指路岳へ。しかし眼前のピークまではいわゆる吊り尾根で、まず分の下り。当然下った分だけ登り返さねばならぬ。口には出さないがKさんも結構しんどさう。クマ笹の節を積みながらのりくりり上り進む。

宮指路岳頂上。12時45分。三角点はそのまま通過。10数分先の広場が、いわゆる宮指路岳のメインロックガーデンだ。馬のり岩の近くに腰を据えてランチタイムとする。

13時30分。小岐須峠経由で下山。広場から北へ急登進むと三叉路。直進はほどなく崖で一般入にとっては行き止まり。「右。小岐須峠」の標識に従って右に折れ、まっすぐ進むとすぐに境界がひらけ、正面に入道ヶ岳が美しい。ミヤマシキミが沈んだような白花を映かせている。道は左に折れ、一気に下る。下りきった鞍部が小岐須峠。頂上から15分である。直進すれば水沢峠から大沢峠、鎌ヶ岳方面。右(東)に下れば出葉岳の「小岐須」分岐。「大石橋・小岐須」の標識が出てくる。デゴユリ、ツクバネソウ等を楽しまながら、カワラコバ谷に沿ってゆつくりと下る。15分ほど下った所で、このコースでは珍しいアカヤシオをみる。下るにつれてヤツツバキが増え、ゆくとツバキの根元にイワウチワが一輪だけ咲いて

いる。右に左に谷を縫いながらルンルンである。岩跡のそばでニシキギの花をみる。14時20分、30分、崩落箇所を通過。小堀場をロープも張られているので、それほど危険ではないが、足が破れてきている時だけに油断は禁物である。頂上付近ではまだ曇ったイフカガミが咲いている。14時35分。直進すれば小さな尾根というところで、右下方に下るV字溝状の道に入る。「屏風岩」への標識がある。5分ほどで杉の植林におつかる。杉葉を踏みながら右手にあらわれた谷に沿って下る。間もなく谷を渡り左に鞍部をみる。ジョウモンシダ、ジュウモンシダが多い。キケマンが咲いている。杉が雑木に変わり、左下方に滝の音を聞く。14時55分。行きに違ったヤケギ谷の合流に着く。時計まわりにぐるりと一周してきたわけだ。登山口まであと15分。遠くでウグイスが鳴いている。

(平成3年5月6日歩く)

- ハコスタイトム
- 小岐須(1時間)
- 大石橋(1時間40分)
- 東面(30分)
- 宮指路岳(20分)
- 小岐須峠(1時間10分)
- ヤケギ谷道分岐(10分)
- 大石橋(1時間)
- 小岐須

(地形図) 昭文社「御在所、鎌ヶ岳

ツツジの名勝

神野山と鍋倉溪

大和高原

家族向けコース(★)
村田 智 俊

神野山(618・833)は一等三岳の山である。山名から想像するとわかしくは神の住む山として神秘的な山であったのだが、今はツツジの咲く自然公園として有名である。

奈良大和高原のほぼ中央部に位置する。交通の便にやや難があり、平素は足の向かない山かも知れない。しかしツツジ咲く初夏には訪れてくつは損はない。

山頂は広々とした公園で、5月いっぱい一面ツツジの花が咲いている。ながめも良好、芝生があつても腰をおろしてくつろぐことができる。今、頂上の三角宮付近で歴史館の建設も進んでいるので、今年の5月にはもう完成しているだろう。グループでのレクレーションハイタやファミリーハイタのコー

スとしておすすめてできる。

鍋倉溪は水の見えない渓谷で、黒っぽい奇岩怪石が果々と谷を埋めつくし、奥深くでもみずらしい瀾々たる景観をみせてくれる。

神野山一帯はツツジとこの鍋倉溪の景観によつて奈良県の名勝・天然記念物に指定されている。又奈良県月ヶ瀬神野山自然公園として地元山添村も山麓一帯を「いこいの森」(奈良県100年の森)と称して「めえめえ牧場」「自然野外センター」「ふれあい広場」などを作り、森林科学校、木工館、段段草、キャンプ場、羊毛館などの施設がある。又それらをつなぐ遊歩道(約9・5km)も整備されたので森の散策を兼ねて訪ねるもよいだろう。

近鉄奈良駅前から奈良交通バス9時14分発「下水間」行に乗る。「下水間」で換乗する「千歳山」行10時03分発に乗り換える。15時15分頃には「神野山登山口」に着く。途中、いくつかの峠を越えながら山間村々をバスに揺られながら進む。心も次第になんてくる。大和高原といわれるこのあたりは茶畑が段状になって山麓に広がっている。木間峠付近の茶畑は特にきれいで、茶摘みの風景も見られることだろう。乗り換えてから一つ峠を越すと前方になだらかな神野山が見えてくる。大坂方面からマイカーの場合には名阪国道の

神野山イン

ター、山添
インターか
ら入ること
が出来る。

「神野山溪
登山口」バス
ス停で下車
し、前方す
ぐに三叉路
がある。車
道を右へ横
切ると森林



総合の建物がある。その横道が登り口である。入り口に神野山の案内板があるので見ておく。

狭い車道に沿って民家の間を登ってゆくと、家が途切れるとまもなく神野山と書かれた道標に出会い、車道は左へカーブするが登山道は真つ直ぐ入ってゆく。右手の五段の道とつてゆくと徐々に林の山、ハッキリした道になる。やがて有杉原からの道と合流し、しばらくすると明るい雑木林に変わり、整頓された遊歩道歩きようになる。左右に分岐するところは右を取ってゆるやかに登ってゆく。いつの間にかツツジが多くなり、山頂に到

着する。みことなツツジの群落と鑑賞するところだろう。先づ三岳三岳のある展望台へ上がつて眺望を楽しもう。四方の見晴らしはすこぶる良好だろう。周辺には温泉や無縁の温泉所がある。又温泉もあり、そこを南へ10分下れば神野寺がある。今はわずかに雲を抜すのみだが、老樹におおわれた静かな寺である。

山頂の中央に芝生の広場があるのでゆつくりと弁当を広げ、ひとときを過ごそう。



「下ろす。遊歩道が交差し、いくつもあるが道標があるので迷うことはない。天狗岩を過ぎると、自然林の中で遊歩道が美しい。20分程で鍋倉溪へ出る。幅20m、長さも300mほどにわたって、真つ黒な大岩がギッシリと積もつていいる。岩の隙間に、どうしてこのような景観が出来たのだろうか。不思議な気分である。

の二本がある。いずれも「下水間」で乗り換える。時間に余裕があれば、鍋倉溪から右折して約5分歩いて森林科学校を見学しよう。入館は無料、森林科私たちの生活の結びつきがよく理解できる。又子供連れなら、登山口へ下る途中に「めえめえ牧場」があるので立ち寄つてみよう。ひつじさんと出会うことができる。

しかし、伊賀の天狗とこの山の天狗がケンカをして岩を投げ合ったとか、又この岩の下の伏流水を見た老若になれるとかいう伝説がある。案内板の説明によると「大和高原一帯は花園が形成されているが、その中でもこの神野山だけは角間地帯」という深成岩(火成岩の一種)でできており、土質が非常に堅いため、浸透されずにそのまま残り、長い年月の間でこの谷へ集まったもの」とある。又鍋倉溪という名称の由来は、岩の色が黒くすすけた鍋の底を想像するためという。

マイカーの場合は、森林科学校付近の駐車場に置いて、鍋倉溪から山頂往復コースがよいだろう。(平成4年3月15日取材)

コースタイム

近鉄奈良駅前(バス1時間)神野山登山口(1時間)神野山(往復20分)神野寺(20分)鍋倉溪(30分)神野山登山口(バス1時間)近鉄奈良駅前

2万1千1大和石・名張・柳生・月ヶ瀬(向い合わせ)

山添村観光企業部

TEL 07438(2)0041

奈良交通バス本社

TEL 0742(22)1171

○バス便は文中の案内外は少ない。

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近畿
▽特別企画「大華山・山伏修行一日入門」 5月2日(中)3日(日)朝集合吉野線下市口駅前14時40分(コース) 二日目(日)下市口駅→河川温泉(約10分) 河川温泉→大華山→大橋→河津温泉→山七ヶ岳(谷根尾)→河川温泉→下市口駅(約20分) 会費9000円(バス代2400円)は別途(定員120名)電話申し込み制 中学生以上の男子、天王寺事業06(624)0382
▽東海自然歩歩け歩け大会「心のふるさと万葉の里 飛鳥史跡めぐり」 5月3日(日)朝集合南大阪線橿原神宮前駅東改札前11時~11時40分(コース) 橿原神宮前駅→刺油→赤鳥寺→伝馬跡宮跡→磯寺→高松塚古墳→猿石→飛鳥(約8分) 参加自由無料 名古屋事業0593(54)7007
▽吉野山キャンベーン「記録とあじさい、吉野山ファミリーハイキング」 5月5日(日)朝集合吉野線前11時(コース) 吉野線七曲駅→藤生寺→藤生神社→高城山展望台(約20分) 参加自由無料(会費2000円) 5月21日(日)朝集合吉野線道成山駅前9時10分(コース) 道成山駅→植村邸→高取城跡→五百羅漢石→壺阪寺→清水谷→道成山駅(約11分) 会費無料、天王寺事業06(624)0382
▽朝日自然教室「東吉野村はたの朝日自然教室」 5月27日(日)、28日(日)朝集合吉野線大和上市駅前15時50分(コース) 二日目 大和上市駅前→大豆生→ふるさと村(約20分) 二日目 ふるさと村→大和上市駅前→ふるさと村ではキャンプファイヤー、花火大会など予定 会費7500円(小人7500円)バス代2300円(小人1160円)別途 定員100名(電話申し込み制) 藤野東吉野村企画課 天王寺事業06(624)0382
▽伊勢参宮本街道シリーズ「第2回 回廊(大宮 尾ヶ辻)」 6月28日(日)朝集合枚間神社9時(雨天決行) 奈良参宮本街道(約10分) 枚間神社→弘法の水→鴨野→南生駒→極木峠→追分本陣→尾ヶ辻駅(約20分) 会費無料 参加の方

▽バックリ抽選会後解説(約7分) 参加者から抽選で吉野山の旅館宿泊券などをプレゼント。天王寺事業06(624)0382
▽朝日自然教室「二上山 寺と古墳」 5月10日(日)朝集合南大阪線二上神社口駅前10時30分(コース) 二上神社口駅→徳文神社→加守寺跡→石光寺→兼堂→鳥谷口古墳→当麻寺→当麻駅(約6分) 会費2000円、講師 徳文寺古学研究所 徳文寺 徳文寺河上郡藤氏 天王寺事業06(624)0382
▽万歩ハイキング「子供の森と壺山寺」 5月17日(日)朝集合生駒線林の台駅前10時(コース) 林の台駅前→子供の森→壺山寺→宮原駅(約9分) 参加自由無料 上本町事業06(775)3566
▽飛鳥キャンベーン「あすか史跡散歩(飛鳥の古墳と寺を訪ねて)」 5月17日(日)朝集合吉野線岡寺駅前10時10分(コース) 岡寺駅前→見瀬丸山古墳→高津池古墳→伝馬跡宮跡→石壁台古墳→鳥宮跡→高松塚古墳→塚本古墳→横寺→山原寺跡→河

市駅あべの橋駅(約9分)、会費5750円(小人3100円) 定員150名(電話申し込み制)、あべの橋東口テレメイトセンター 06(624)0026
▽文学散歩「大宮万石と田原の里」 5月31日(日)朝集合近鉄奈良駅東改札前10時(コース) 近鉄奈良駅→音切地蔵→春日宮大日尊→太安万侶墓→光(天皇陵)→日笠→近鉄奈良駅(約10分) 会費2000円(バス代6100円)小人3100円別途 講師 奈良女子大文学部 藤田 稔 氏 上本町事業06(775)3566
▽読売ファミリーハイキング「滝のある道、せいのの滝と青根ヶ峯」 5月31日(日)朝集合吉野線大和上市駅前9時30分(コース) 大和上市駅前→西河→せいのの滝→青根ヶ峯→葛生→吉野線(約13分) 参加自由無料(バス代5900円)小人3000円別途 天王寺事業06(624)0382
▽近鉄ファミリーハイキング「花大和フエスタ、室生寺滝谷」 6月7日(日)朝集合大阪線室生口大野駅前11時(コース) 室生口大野駅→室生寺前→室生寺→三輪神社→流谷花しょうぶ園→三本松駅(約8分) 参加自由無料(バス代3400円)小人1700円別途 名古屋事業0593(54)7007
▽読売ファミリーハイキング「滝のある道、貴業の滝から滝谷花しょうぶ園」 6月14日(日)朝集合大阪線三本松駅前10時20分(コース) 三本松駅→貴業滝→鎌倉滝→白鳥神社→滝谷花しょうぶ園→三本松駅(約11分) 参加自由無料(入場料7000円)小人3500円別途 上本町事業06(775)3566
▽吉野山キャンベーン「記録とあじさい、吉野山史跡めぐり」 6月14日(日)朝集合吉野線吉野駅前11時(コース) 吉野線吉野駅前→如意輪寺→藤生神社→吉水神社→藤生寺→藤生大寺→七曲駅→吉野線(約7分) 会費無料(拝観料別途) 天王寺事業06(624)0382
▽万歩ハイキング「叡殿・叡殿」 6月21日(日)朝集合吉野線道成山駅前9時10分(コース) 道成山駅→植村邸→高取城跡→五百羅漢石→壺阪寺→清水谷→道成山駅(約11分) 会費無料、天王寺事業06(624)0382
▽朝日自然教室「東吉野村はたの朝日自然教室」 5月27日(日)、28日(日)朝集合吉野線大和上市駅前15時50分(コース) 二日目 大和上市駅前→大豆生→ふるさと村(約20分) 二日目 ふるさと村→大和上市駅前→ふるさと村ではキャンプファイヤー、花火大会など予定 会費7500円(小人7500円)バス代2300円(小人1160円)別途 定員100名(電話申し込み制) 藤野東吉野村企画課 天王寺事業06(624)0382
▽伊勢参宮本街道シリーズ「第2回 回廊(大宮 尾ヶ辻)」 6月28日(日)朝集合枚間神社9時(雨天決行) 奈良参宮本街道(約10分) 枚間神社→弘法の水→鴨野→南生駒→極木峠→追分本陣→尾ヶ辻駅(約20分) 会費無料 参加の方

▽特別企画「しやくなげの太舌ヶ原」 5月24日(日)朝集あべの橋東口テレメイトセンター前7時40分(コース) あべの橋駅→(待合)→大和上市駅→大台ヶ原→日出ヶ原→正木ヶ原→生石ヶ原→大輪塚→シオカラ谷→大台ヶ原→大和上

▽特別企画「しやくなげの太舌ヶ原」 5月24日(日)朝集あべの橋東口テレメイトセンター前7時40分(コース) あべの橋駅→(待合)→大和上市駅→大台ヶ原→日出ヶ原→正木ヶ原→生石ヶ原→大輪塚→シオカラ谷→大台ヶ原→大和上

▽特別企画「しやくなげの太舌ヶ原」 5月24日(日)朝集あべの橋東口テレメイトセンター前7時40分(コース) あべの橋駅→(待合)→大和上市駅→大台ヶ原→日出ヶ原→正木ヶ原→生石ヶ原→大輪塚→シオカラ谷→大台ヶ原→大和上

公園コース」 5月10日(雨)雨天の

(373) 53226

5月17日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

奥の陣前―接峰―龍ヶ崎―大和木
崎―奥の陣前―高野山駅(約9
分) 南海線(合乗)06(643)
1005

馬鞍前―釜石坂―船原―江文峰―
寒谷伴―龍泉山―二本松―東京
が原―八潮 参加無料(交通費別)
阪山電鉄線(075)(761)
5121

5月10日(雨)雨天の

【奈良】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

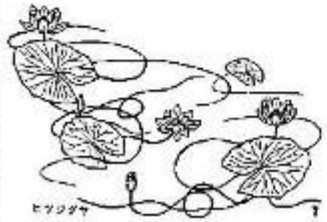
【神戸】

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

5月10日(雨)雨天の

ハイキングの情報をお寄せ下さ
い。次回は7月&8月分を



ヒソツグ

せせらぎ

たのしかった山行の思い出や記録。四季の自然情報など。常時投稿下さい。
1行15字詰20行以内。

通字・小林波瑠三

昨年12月20日から2日間の日程で、家内と二人で飛騨高山へ行っただ。バスツアーだがいつものハイキングスタイル。ちがうのは足元が山グツでないだけである。途中、真っ白な御嶽山が見えてうれしかった。高山は雪はなかつたがさすがに寒かった。

同じツアー客の二人の若い女性グループに声をかけられた。良いものである。

「京都からなのに、なぜ新ハイキングですか？」

リュックにパッチを付けていたこ

とを思い出した。


「今度、関西版ができたのですよ、よろしく……」とおかげで楽しい2日間になった。

飛騨の里から見た、白い道々岳を中心にたて横山・南岳・双六岳とみごとな山々に感動した。昨年アルペンルートも行ったことになった。今年の5月連休後、今度は山をめぐらしてみよう。高山を訪ねてみよう。

朝市、早食会、高山陣屋などとてもすばらしい旅だった。

(林 吟次郎)

91年12月27日。雨の大阪を徒歩にて出発。二上山の麓、叡臨寺に宿を借る。熱い風呂が有難かった。28日。雨。2時間ほど歩くと麓がびしょ濡れ。高田より電車、バスに乗る。奈良東大寺院、大黒屋泊。29日。天候、雪。開路で弁当を食べる。気温氷点下。自販販売機で買った熱い烏龍茶に感激。積雪15cmは超えていた。よく滑った。撤収時を通り御杖村土屋原温泉道30日。道はアイスバーン。大洞山を見、道世界の奈良原から帰道し三重原に入る。戻道で自然環境が



どこへ行くか
SHC関西サービス
チェーンへ

サービスステーションを利用するときは、電話か往復ハガキで必ず予約をして下さい。
◎予約のときに料金を確認して下さい。

名峰二岐山 小白丸 大日蓮寺
子母屋への登山 1名で1名で乗車
料金は2000円(予約) 雨天は中止と内線

福島・二岐温泉
日観連 大和館
〒962105
福島県福島市安代二岐温泉
0254418411 0254418412
0254418413 0254418414

秩父鉄道「クレーン」券も
東武鉄道「利用」券も
秩父 不動の湯
〒3668
埼玉県秩父市山田24312
049412311 126

富士登山・富士五湖
東海自然歩道
(石切山・ハリモミ・純林)
ペンション コットンテール
〒401105
山梨県南都郡山中湖町平野
055513518515

四季繰り返す乗鞍高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ。冬はスキー
けやき造り味の宿。日観連
温泉旅館 けやき山荘
〒390115
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
02631932555

変わるのをそばで見ると、美形村北島神社に詣り、結城屋に泊まる。31日。暖かい日さしのもと、快道に歩く。1日多気駅の近くで91年最後の春晴らしい落口を見た。1日未明。伊勢神宮初詣。

- 二月山行報告
- 22日、三橋ノ塔(25万)大酒(田山長谷 同「池田」)。
 - 7日、田山丸山 同「名張」。
 - 9日、大和温泉会番外、三峰山温泉。参加7名。
 - 11日、山のつとめ例会。田山丸山温泉(田山長谷)を見、文化会館にて研究会。参加15名。
 - 17日、大和温泉会例会。中ノ道を歩く。藤野門(由原木。参加20名)。
 - 25日、田山丸山(平) 同「高代山」。これを宗良山下の「山口」20名参加。
 - 26日、27日、28日、田山丸山を祝して、山のつとめ研究会で、田山乙女 同「大和温泉」へ行くので、研究会を併せて、1ト月かけて、泉下の温泉旅館三角山(藤原木)。

久しぶりに会った友人から「新ハイキング別冊関西の山」を手渡された。「なにこれ」「先日寄った山の店に置いてあったの。新しく出たハイキングの本だつて」「大判でカラーグラビア全盛の時代になんて口風な雑誌があるんだね」「それ路線を組んでいるのかな」「それにしても字が小さいね。老眼鏡がいてるよ」「あんたもう50だもんね」「ころ大きな声で言うな」「老化予防のためにハイキングにでも行こうか。老化は足からつて言うからね」「ニツカ姿でザックを背負った中におぼん」「まあ、はしたない」「服装して歌舞伎物、お食事と楽しむのいいけど、自然に触れてみたら、忘れていた何かを感じるよ。汗をかいた後、山の温泉でお食事よ」

3月8日、電ヶ岳の例会に初参加。久しぶりの山歩きに不安を感じながら、温泉から梨ノ木谷を渡る。冷気が心地長く、天気もよく快適でしたが、首無地蔵への登りは苦しく、パテ気味でした。

渡部を踏んで、音見谷から電ヶ岳への急登も、ちよびり登山気分を味わい頂上着。仲間と食べる弁当。楽しい会話に、山仲間の良いさを感じました。久しぶりに感じる心地良い疲れの山行でした。

(渡部 寛)

汗をたっぷり流せる温泉と、汗ヶ岳のシャワーシャワー。日本酒の野良と山の幸。ハイカーの寄。

ナガサキ ロッジ
〒945121 新潟県中頸城郡
妙高高原町の平湯温泉
025518612261

高山の花、温泉の花
妙高山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池 ヒュッテ
〒945121
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の三湯泉 ナガサキロッジ
025518612261

休憩飲食入浴も歓迎
10名以上マイクروبスで送迎
箱根権五原温泉
福 屋 館
〒255006 神奈川県足柄下郡
箱根町仙石1339
04660149041

山小屋風のペンション
山アルプス北郡・八ヶ岳登山
山女釣り(中央線日野林駅より
送迎車有)
フクロノル・ヒュッテ
〒4008 山梨県高根町下黒沢
24244
055114712541

山行計画 SHC関西

若/ペンギンクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限ると特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するようにならなくてはなりません。」「出発」のほかに参加名簿代その他の前送金等を送付することがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料10000円、旅行日当りの参加費2000円になり10000円を支出して頂きます。(AUI保険会社と契約)

●登山保険内容が次の通りです。

- 死亡・後遺障害保険金 1000万円
- 入院保険金 5000円
- 酒酔い保険金 2500円

●日額 2500円

●保険の対象は集合時から解散時まで。事故があつた場合は解散時までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。

- ①レンタル・5本以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを追加した山行、②スキー・使用の山行、③登山杖・水筒等は自己目的とした山行、④宿泊場所内の事故、(詳細は係まで)

(記入例) (往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 〇〇〇〇

期日 〇月〇日

住所 〒

電話番号

氏名

会員番号

(会籍でない方は空白と記入)

生年月日 (年齢)

緊急時の連絡先

近信用ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

京都北山歩き

シャクナゲ尾根・猿杉山 (一般向き)

期日 5月10日(日) 日帰り

集合 北大路駅(地下鉄)バスターミナル8時50分

コース 北大路駅(9時02分発) 小出石→登山口→シャクナゲ尾根→猿杉山→P581→大塚バスターミナル(解散16時30分頃)

費用 約1500円(バス代)

地図 昭文社「京都北山1」

係 昭文社「京都北山1」

申込み 〒610-0011 城陽市寺田大野10の10村田まで

シャクナゲの季節です。花があるよといひ分りませんが、花があるよといひ分りません。登山口からシャクナゲ尾根までは急登あり。雨天中止。

文学座散歩会

天香貝山・三成山(一般向き)

期日 5月31日(日) 日帰り

集合 近鉄御所駅(9時)

コース 近鉄御所駅→本薬師寺跡→紀守跡→大官大寺跡

日本最南位の温泉 (24000)	立山・宝冠山 みくりが池温泉 連絡先 〒930 高山市五福末広町 07641410434	ハイキングにノースキーにノースキー 志賀高原 石の湯口ツツジ バス 熊の湯線平床下止 電 026913412421 東京本社・東京都新宿区新橋3-20-15(新橋2ビル) (休) スポーツササビス 電 031334110211	黒部山・妙高火打山・飯綱山登山・前名越ハイキング 大自然が奏でる四季の詩 ロマンチック シャレール黒姫 電 0268215513171	館内より日本カモシカ毎日20頭以上と、北アの西形観察、北ア全体の大展望の係、春は山菜等 展望風呂・露天風呂 あるふすいん 高山荘 〒382 長野県上高井郡高山村山田牧場・奥山山荘 電 0266214212527
---------------------	--	---	--	---

天香貝山・藤原宮跡

耳成山・八木沢

費用 約1500円(近鉄)本町駅迄

地図 ②万5千→桜井・藤原山係 ③松永電

申込み 〒580 松原市岡2の2の22松永まで

大和山の一つで万葉集にもよく詠まれる。天香貝山や藤原時代に築かれた寺跡や宮跡を尋ねます。本誌42頁記事参照。雨天中止。

比良・釈迦橋から薬師橋 (冬も健脚向き)

期日 6月7日(日) 日帰り

集合 京福駅3番ホーム(湖西線) 中央発信付近8時30分

コース 京福駅(8時47分発) 比良駅→イン谷口バス停→大津ワグネル近→釈迦橋→ヤケ山→寒風峠→涼峠→小松原→京福駅

費用 約1500円(交通費)

期日 6月21日(日) 日帰り

集合 出町駅(7時45分発) 京福駅(7時45分発)

コース 出町駅(7時45分発) 京福駅(7時45分発)

地図 昭文社「比良山系」

村田智俊(中西信行) 係

申込み 〒601-0011 城陽市寺田大野10の10村田まで

流風の尾根道を選んで歩きまわす。大津ワグネル道はなかなかコースです。途中の風景も素晴らしい。

鈴鹿・鎌ヶ岳(やや健脚向き)

期日 6月21日(日) 日帰り

集合 近鉄津の山温泉駅9時

コース 津の山温泉駅→津の山温泉→一の谷(至三つ口)→谷→津の山温泉→津の山温泉

費用 保険代50円

地図 昭文社「津在所・鎌ヶ岳」

係 昭文社「津在所・鎌ヶ岳」

申込み 〒511-0033 鈴鹿市大谷久保町2-3-5 程田まで

なだれる緑の中を、ぼとぼと歩きの中を…… 雨天中止。

温泉駅

新緑の八丁平温泉を訪ね、峠味から一巡するコースです。さわやかな初夏の風にふかれながら歩きましょう。

あなたのある里になりたい スキー場まで歩いて1分 白馬ファミリーペンション 和 田 森 〒399-9193 長野県北安曇郡白馬村八方和田野 電 026117215351	八ヶ岳南北域の中心地 59年秋の新築完成全館暖房 木の香がうきうきする温泉 オーレイン 小屋 1泊2食付 45000円 4月未・11月末開設 〒399-1102 長野県小平 男 電 026617211279	日本第一の女人禁制の山(大平山) (百名山)の登山口 山村の女主人コースもあり 温泉・名水の里 旅館 紀の国屋 八 1泊2食付 7,000円から 〒639-1004 奈良県吉野郡天川町河津川 電 0747647640309	九州の最高峰・日本百名山 宮之洞岳に一番近い宿 屋久島安曇温泉山荘 ホテル 磯 辺 荘 〒89-1143 鹿児島県志布志市久安 電 0999741613021
---	--	---	---



山行報告

三浦山

2月2日(日) 晴
 桜井 集彦 一海石橋市 金谷
 石川 幸彦等 大浦神社 狹井神
 社 三浦山 芝罘庵 南原神社
 荻原 富良 松井 俊 福地
 高野 友里 高田 久
 胡内 孝之 吉野 房 猪太郎
 宗竹 佐野 松水 めぐみ
 ◎松水 志一 計11名

藤原岳

2月2日(日) 晴
 三坂 隆道 藤原 9・00 (集合)
 9・20 出発 大貝 行近 14合
 目10・20 8合目11・00 (集合)
 藤原 庄12・00 (昼食) 13・00
 藤原 庄13・30 13・45 藤原山
 所 兼 社 和子 水本 加津来

庄14・00 14・15 (多道) 18
 合目14・45 4合目15・10 大貝
 戸登山口15・45 西藤原 15・55
 (解散)
 頂上付近の積雪は10cm、かんじ
 きを履いてのこぎげん山行でした。
 (参加者) 沢崎 英五 北川 明
 ◎新町 幸夫 福地 達夫 計7名
 他に会員外3名 計7名

天ヶ森

2月9日(日) くもりのち晴
 北大路 駅 バスターミナル 8・40
 (集合) 9・02 発 小出石 9・50
 10・00 登山口 10・20 天ヶ森
 12・20 (昼食) 13・30 安曇川源
 流 荻原 谷口 15・10 ミタニ 16
 00 16・10 小出石 17・05 17
 20 北大路 駅 18・20 (解散)
 積雪は約10cmくらい、冬の
 天ヶ森は白くて爽しかった。天ヶ
 森からミタニ 2峠への尾根道を途中
 誤って釜相谷へ下った。安曇川源
 流よりミタニ 2峠を登って、予定よ
 り1時間タイムオーバー。
 (参加者) 福本 秀樹 川崎 紀久子
 山田 幸子 星野 正弘 山口 恵美子
 井川 邦弘 猪田 治美 奥比 裕美
 所 兼 社 和子 水本 加津来

藤田 由子 出口 繁次 石川 昭
 樺山 繁三 山崎 剛 橋田 とし子
 横田 廣義 吉田 庄一 ◎中西 信行
 ◎山口 哲俊 計22名

会員募集

KKG 京都北山グループ

「京都北山」をメインに関西の山
 一円へ日帰りハイキング、四季を遊
 び、月3〜4回、年間4回以上山
 行しています。遠征もあり。
 特に「京都北山」は主要なルート
 の他、未知への道を探るをモットーに
 して、知られぬコースも歩ませ
 ます。「京都北山」を歩いてみたい方
 はどうぞ御入会下さい。
 経験、年齢、性別は問いません。
 入会は随時、申し込め、お問い合わ
 せは左記へ。
 ◎事務局
 〒602 京都市上京区塚本町小
 川西 八ノ 出口 繁次 方
 TEL 075(211) 3334

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行例会を通して
 正しい山歩きを、たのしい山仲間
 たちといっしょに味わいませんか
 リーダー(後)はすべて無償の奉
 仕で、各自で御符を買い茶代を払
 い、宿泊料もすべてワリカンです。
 新ハイキングクラブ関西の活動
 はまだ始まったばかりです。
 あなたも新ハイキングクラブ関
 西に入会してたのしい仲間にな
 りませんか。会員には毎月「新ハ
 イキング・別冊関西の山」(年間6
 号)をお届けします。会員はこの
 ページの山行例会に参加できます。
 入会金 500円 (バッジ代)
 年会費 2500円 (登録費共)
 です。切手代500円をお送りにな
 れば見送部1冊をさしあげます。
 新ハイキングクラブ関西への入
 会申し込みはこの雑誌に挿入の振
 替用紙をご利用ください。第何号
 から送末までと明示下さい。
 1号〜3号バックナンバー在庫
 ありますので、ご希望の号から御
 入会頂きます。

計26名

◎新入会者紹介

- | | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|-------|----------|
| 大塚 紀子 | 垣内 祥 | 岩田 喜久子 | 塚 尾子 | 森田 元治 | 森田 節巳子 |
| 海野 裕延 | 清水 誠 | 星野 裕男 | 奥谷 昌男 | 横井 時久 | 小野 澤 伸 |
| 小池 野子 | 山本 洋一 | 山本 穂子 | 尾野 孝子 | 原田 裕彦 | 塚本 浩二 |
| 寺岡 昌巳 | 藤川 清一 | 山中 真由美 | 河野 直子 | 山下 博也 | 本郷 善明 |
| 鎌田 文夫 | 落合 博 | 福田 ケン子 | 山正 源一 | 後野 弘子 | 上田 文子 |
| 竹田 昌代 | 竹内 正三 | 笠高 英次郎 | 多田 春子 | 山崎 聡子 | 川越 はじめ |
| 阿部 正夫 | 柏木 宏信 | 佐久 間 光 | 浜田 正平 | 猪形 洋 | 小笠原 啓雄 |
| 才田 衛 | 山田 隆利 | 関 喜代子 | 川田 敦子 | 岡本 富雄 | 小笠原 敦子 |
| 藤澤 進生 | 船橋 淳子 | 中村 哲一郎 | 内田 アイ | 牧野 秋子 | 中略 か上子 |
| 佐藤 栄治 | 船橋 正夫 | 北尾 三郎 | 武本 博子 | 牧野 早苗 | 村上 アケミ |
| 中西 君 | 中西 和子 | 長谷川 健彦 | 加地 成子 | 森澤 元博 | 村上 アケミ |
| 別所 隆敏 | 和田 博 | 北尾 三郎 | 渡辺 和孝 | 大塚 勇 | 小野 敦美 |
| 金森 俊 | 松本 隆雄 | 古賀 英代子 | 須田 肇 | 後藤 敏文 | 後藤 敏志子 |
| 藤本 尚二 | 米沢 弘二 | 森平 尚彦 | 内田 信幸 | 古谷 登一 | 柳山 正俊 |
| 藤 隆 | 藤 悦子 | 井上 哲郎 | 橋本 山子 | 佐藤 正治 | 高木 貴子 |
| 丸井 悦子 | 芥 秀夫 | 柴崎 裕代 | 佐藤 明子 | 阪本 健治 | 高木 貴子 |
| 中村 彰男 | 山崎 修 | 小野 スズミ | 佐藤 正治 | 野口 由美 | 曾根 寛三 |
| 深坂 政 | 石黒 信二 | 手塚 とし子 | 高東 一夫 | 猪岡 勇 | 吉田 信秀 |
| 高橋 威 | 城 松輝 | 江副 光一 | 芝田 繁子 | 内海 幸男 | 平井 富美子 |
| 吉岡 守正 | 中村 隆雄 | 杉浦 裕彦 | 平山 貞二 | 藤原 初江 | 矢野 三郎 |
| 深津 清典 | 本嶋 修 | 大橋 信彦 | 山口 節子 | 藤原 初江 | 矢野 三郎 |
| 魚田 隆雄 | 山崎 敬生 | 井上 英子 | 近藤 孝子 | 南 利彦 | 南 繁子 |
| 山崎 雅子 | 山本 和夫 | 清原 久 | 日原 敦子 | 北村 誠助 | 関 和子 |
| 若井 忠男 | 中野 文夫 | 永松 信夫 | 山田 行一 | 橋本 行雄 | 村松 正男 |
| 辻本 健子 | 一色 克己 | 菅原 信也 | 橋本 忠作 | 吉岡 文雄 | 水田 繁美 |
| 里井 雄雄 | 田野 至一 | 田野 節子 | 渡谷 明美 | 田中 玲子 | 足立 八重子 |
| 南谷 勝 | 南谷 穂子 | 田野 節子 | 鶴岡 昇夫 | 寺本 保雄 | (Greece) |

東京版

「新ハイキング」(月刊)

定購履歴のすすめ

東京の「新ハイキング」誌は月刊
 です。昭和25年創刊で、以来4年間
 全国のハイキングファンに親しま
 れています。
 関東、甲信越の山を中心に北海
 道、東北から九州までハイキング情
 報がいっぱいあります。

定購履歴を御希望の方は、

入会金 500円
 年会費 4000円
 です。郵便振替をご利用いただき左
 記へお申し込み下さい。

新ハイキング社

〒114 東京都北区滝野川7の6
 の13
 TEL 03(3591) 8110
 振替口座 東京 31146915